

世界主要国の2007年鉄鋼需給見通し

**2007年1月
(社)日本鉄鋼連盟
輸出市場調査委員会**

《 目 次 》

調査結果の概要	2 頁
I . 世界経済	6 頁
II . 世界鉄鋼需給	
A . 鉄鋼需要	9 頁
B . 鉄鋼生産	15 頁
C . 鋼材輸出	17 頁
D . 鋼材輸入	19 頁

調査メンバー（輸出市場調査委員会 小委員会委員）

丹内 孝治	三井物産(株)	鉄鋼製品副本部長（小委員会委員長）
金子 芳久	伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	経営企画部 市場総括チーム
瀧上 幸吉	住友商事(株)	金属総括部次長
田代 博	三井物産(株)	鉄鋼製品業務部 企画業務室 次長
那須 雄司	(株)メタルワン	経営企画部 海外ユニットリーダー

（順不同・敬称略、2007 年 1 月初現在）

調査対象国

東南アジア（11 カ国）	中国、韓国、台湾、香港、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド
中近東（3 カ国）	イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（U.A.E.）
欧 州（1 地域、6 カ国*） （*うち EU 加盟国 4 カ国）	EU（25）、*英国、*ドイツ、*フランス、*チェコ、ノルウェー、トルコ
C I S（2 カ国）	ロシア、ウクライナ
北米（2 カ国）	米国、カナダ
中南米（2 カ国）	メキシコ、ブラジル
オセアニア（1 カ国）	豪州

調査方法および調査の前提

調査対象国については、東京サイドでデータを収集・整理した後、小委員会メンバー商社現地店にアンケート調査を実施し、回収後その内容を分析した。なお、アンケート回答作成の前提条件として、①2006 年 11 月末現在の為替、金利水準、原油価格をベースとする、②2007 年中に長期的戦争の勃発など重大な国際情勢の変化はないものとする、の 2 点を定めた。

アンケート調査実施時期

2006 年 11 月 17 日(金)発送～12 月 8 日(金)回収

【調査結果の概要】

1. 2007 年の世界経済

- 2004 年以来の世界同時好況は 07 年には 4 年目に入ってさらに継続するものと予想される。06 年後半からは米国経済に減速傾向が窺われたものの、その後、軟着陸の見通しが強まり、他方、BRICs 初め新興市場諸国の高成長が続くとともに、日・欧経済も自律回復軌道に乗ったことなどから、07 年の世界経済は前年の 5.4% から 5.0% へとやや減速するとはいえ、堅調な伸びを続ける見通しである。
- 2007 年の主要国・地域別動向では、米国経済の成長率は 4 年振りに 2% 台に減速するが、新興市場では中国 (9.6%)、ベトナム (7.8%)、インド (7.5%) 等が高度成長を続け、また、ロシア (5.5%) や中東産油諸国 (6% 程度) も堅調に推移する見込みである。06 年から回復の足取りがしっかりとしてきた EU (25) の成長率は 07 年も 2% 台半ばに止まる見込みであるが、一時期の停滞を脱して潜在成長率並みの成長となるものとみられる。

2. 2007 年の鉄鋼需給

- 2007 年の主要国鋼材見掛消費 (調査対象 23 カ国+1 地域合計) は前年比 8.5%、8,880 万トン増の 11 億 3,800 万トンと、06 年に比べ伸び率はやや鈍化するものの中国を中心に引き続き堅調な増加が予想される。
- 需給バランスをみると、粗鋼生産は EU、米国でマイナスの伸びとなるが、中国が前年並みの 17% の伸びを続ける他、ブラジルも顕著に増加し、全体として前年比 7.4% の増加が見込まれている。鋼材輸出入は共に微増が予想される。

A. 調査対象 23 カ国 1 地域の鉄鋼需給見通し

(単位: 100 万トン、%)

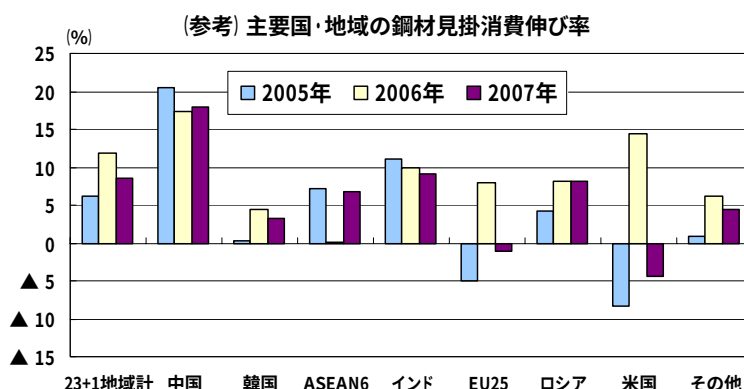
	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	938.1	6.2	1,048.8	11.8	1,137.6	8.5
粗鋼生産	962.3	7.0	1,062.7	10.4	1,141.6	7.4
鋼材輸出 (含半製品)	208.8	6.7	239.1	14.5	243.3	1.7
鋼材輸入 (含半製品)	214.1	1.0	230.2	7.5	233.7	1.5

B. 除く中国 (22 カ国 1 地域) の鉄鋼需給見通し

(単位: 100 万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	561.7	▲1.6	606.8	8.0	616.6	1.6
粗鋼生産	612.9	▲0.9	642.7	4.9	649.6	1.1
鋼材輸出 (含半製品)	182.3	3.4	188.7	3.5	193.7	2.6
鋼材輸入 (含半製品)	186.9	4.5	211.2	13.0	214.5	1.6

注) 鋼材輸出入は半製品を含むため、鋼材見掛消費の算定ベースとはならない (以下各表とも同じ)。



3. 主要市場別の 2007 年見通し

(1) 中国

- 需要：政府のマクロコントロール政策継続で、鋼材内需を牽引する投資関連需要は鈍化が見込まれるが、製造業は引続き高水準で推移するとみられ、鋼材需要は拡大持続の見通し。
- 生産：政府は一連の産業政策実施を強化する方針で、立遅れた能力の淘汰が進むとみられるが、旺盛な内需や好調な外需により、伸びは鈍化も増産基調維持の見通し。
- 輸出：貿易摩擦への懸念が増大しているが、世界的に鋼材需要は拡大基調にある中で、高水準の輸出を維持する見通し。但し、半製品は輸出税賦課の影響から減少すると思われる。
- 輸入：ここ数年の大幅増産により、輸入代替が一段と進展しているが、国内ミルの供給が不足しているハイエンド品を中心に前年並みの輸入が行なわれる見通し。

(単位：100万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	376.5	20.5	442.0	17.4	521.0	17.9
粗鋼生産	349.4	24.6	420.0	20.2	492.0	17.1
鋼材生産	371.1	24.8	465.0	25.3	545.0	17.2
鋼材輸出 (含半製品)	26.4	37.3	50.4	90.7	49.6	▲1.6
鋼材輸入 (含半製品)	27.2	▲17.9	19.0	▲30.2	19.2	1.1

注) 鋼材生産・見掛消費には重複分を含む。

(2) 韓国

- 需要：建設は、都市開発プロジェクトの着工が見込まれるものの、全体としては低調に推移する見通し。一方、自動車、造船向け需要は前年に引続き好調が予想される。
- 生産：POSCO の FINEX 稼働、現代製鉄唐津 A 地区熱延工場の電炉再稼働、特殊鋼メーカーの設備増強などにより増産が見込まれる。
- 輸出：自動車用鋼板を中心とする高付加価鋼板分野での能力増強が相次いでおり、こうした品種を中心に輸出は増加する見通し。
- 輸入：単圧ミルの能力増強に対し、韓国国内ミルの母材供給は依然として不十分であり、前年に引続き輸入は増加する見通し。中国製鋼材の流入も継続するとみられる。

(単位：100万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	47.1	0.2	49.2	4.4	50.8	3.2
粗鋼生産	47.8	0.6	48.3	1.0	49.9	3.4
鋼材輸出 (含半製品)	15.9	7.4	18.1	13.7	19.5	7.8
鋼材輸入 (含半製品)	18.6	6.2	22.3	19.9	24.3	9.0

(3) 台湾

- 需要：国内に大きな投資プロジェクトは見当たらず、また、政治的混乱で島内への投資が抑制的になっていること等から、実需の大幅な回復は困難とみられる。
- 生産：内需が前年同様力強さを欠く中で、外需も頭打ちとなり、生産は微減となる見通し。
- 輸出：前年に引続き中国向けが減少し、前年上期に好調だった北米向けも減少が見込まれることから、輸出は減少する見通し。
- 輸入：鋼材内需の回復が緩慢であることや増値税還付率引下げにより中国からの増勢が弱まるとみられ、輸入は減少する見通し。

(単位：100万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	19.9	▲9.7	19.8	▲0.8	20.5	3.7
粗鋼生産	18.6	▲5.2	20.1	8.1	20.0	▲0.4
鋼材輸出 (含半製品)	9.2	▲1.9	10.2	11.2	9.5	▲7.0
鋼材輸入 (含半製品)	11.0	▲19.5	10.6	▲3.9	10.1	▲5.2

(4) タイ

- 需要：06 年の政変に伴い低迷した建設向け鋼材需要は、現暫定政権によりメガプロジェクトが継承、推進される見込みから、公共投資関連で年央頃から増加することが期待される。
- 生産：鋼材生産は建設向けの回復を中心に前年水準を上回る見通し。
- 輸出：中国製品との競合激化が続くものの、05 年水準程度は回復。
- 輸入：公共投資関連の内需増やパーツ高の影響等で輸入は増加の見込み。

(単位：100 万トン、前年比増減率 %)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	14.1	8.0	13.4	▲5.3	14.0	4.5
粗鋼生産	5.3	16.9	5.2	▲2.6	5.2	0.8
鋼材輸出 (含半製品)	2.1	▲0.8	1.9	▲9.6	2.1	10.5
鋼材輸入 (含半製品)	12.6	13.3	10.0	▲20.4	11.0	10.0

(5) インド

- 需要：高成長を続ける経済を反映し、エネルギー、インフラ関連および自動車など製造業を中心に鋼材需要は順調に増加を辿る見通し。
- 生産：内需の増加を背景に、大手ミルは積極的に能力拡張を進めており、増産基調継続の見込み。
- 輸出：中国向けは減少も、国際市況が安定するなか、中東向け中心に若干増加の予想。
- 輸入：国内ミルが供給不可な品種の需要が急速に高まるなか、こうした品種を中心に増加が予想される。

(単位：100 万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	38.1	11.1	41.9	10.0	45.7	9.1
粗鋼生産	38.1	16.7	42.1	10.6	44.2	5.0
鋼材輸出 (含半製品)	5.6	8.4	6.1	8.3	6.3	3.3
鋼材輸入 (含半製品)	5.2	91.0	5.8	10.6	6.4	10.9

(6) 米国

- 需要：自動車は第 1 四半期まで BIG3 の減産が継続され、需要の増加は期待できない。建設関連需要は底堅いが、記録的に積み上がった在庫があり、全体として 06 年を下回る見込み。
- 生産：07 年年初は需給調整のためミルの減産が続く見通しで、前年から減少。
- 輸出：ドル安もあり、NAFTA 向けを中心に前年水準を維持。
- 輸入：在庫が増加する中、市況の下落が続いており、輸入量は当面減退していく見通し。但し、年後半には輸入需要の回復が期待される。

(単位：100 万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	109.6	▲8.4	125.3	14.4	119.7	▲4.4
粗鋼生産	94.9	▲4.8	98.8	4.1	95.3	▲3.6
鋼材出荷	95.2	▲5.8	101.3	8.0	98.3	▲3.0
鋼材輸出 (含半製品)	8.5	18.4	8.9	4.5	8.9	▲0.1
鋼材輸入 (含半製品)	29.1	▲10.3	42.3	45.2	39.9	▲5.6

(7) 欧州 (EU25)

- 需要：実需の伸びが鈍化するとともに、年前半における在庫の減少傾向もあって、鋼材見掛消費は通年で僅かながら前年を下回ると見込まれる。
- 生産：年初の一部ミル減産等もあって、前年比微減程度。
- 輸出：ミルの域内需要優先を背景に鋼材輸出は前年水準を上回らない。
- 輸入：前年の急増で貿易摩擦の緊張が高まり、07年の輸入は減少に転ずるとみられるものの、高水準を維持。

(単位：100万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	158.8	▲5.1	171.5	8.0	169.6	▲1.1
粗鋼生産	187.3	▲3.1	198.0	5.7	194.2	▲1.9
鋼材輸出 (含半製品)	32.0	8.1	31.8	▲0.6	30.1	▲5.4
鋼材輸入 (含半製品)	27.2	1.9	35.3	29.8	35.0	▲0.8

(8) ロシア

- 需要：06年同様、建設を中心に鉄鋼需要は旺盛。また、大型パイプラインプロジェクトの着工により鋼管需要も更に増加する。
- 生産：設備拡張と内需好調により高水準を維持。
- 輸出：内需好調で国内の鋼材価格が上昇しているが、前年比では増加となる見通し。
- 輸入：セーフガードの結果、日本、ウクライナからの大径管輸入は減少する可能性はあるが、原油高を背景に掘削用鋼管、造船・鋼管用厚板の需要増が見込まれ、全体の輸入数量は増加する。また、中国からの輸入に注目。

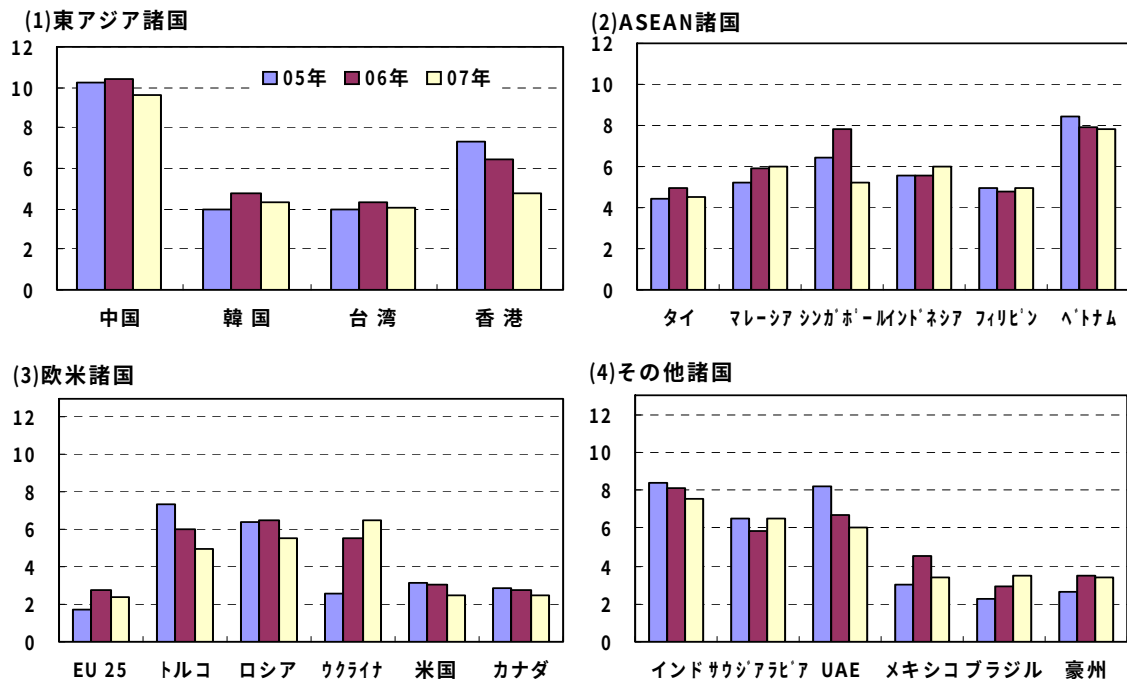
(単位：100万トン、%)

	2005 年 (実績)		2006 年 (見込み)		2007 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	30.5	4.3	32.9	8.0	35.6	8.1
粗鋼生産	66.1	0.9	70.0	5.8	71.0	1.4
鋼材輸出 (含半製品)	31.5	3.8	31.0	▲1.7	33.0	6.5
鋼材輸入 (含半製品)	4.7	14.7	4.5	▲4.7	4.9	7.8

I. 世界経済 — 世界同時好況は4年目へ

- (1) 世界経済は、2006 年には、原油価格が夏場にかけて空前の水準まで高騰し、また、各国で政策金利が引き上げられる傾向も広がったこと等にも関わらず全般的に予想以上に堅調に推移し、本調査結果でも、対象 23 ヶ国 1 地域の経済成長率の単純平均で、2005 年の+5.1%を上回る+5.4%とやや加速をみた。
- (2) 2007 年の世界経済は、同平均で+5.0%程度の成長となると予想され、2004 年に始まった世界同時好況は4年目に入ってさらに継続するものと想定される。
2006 年後半には米国経済に減速傾向が見え始め、一時期、世界景気の先行きにも不透明感が漂い始めたが、その後の米国景気は底堅い消費に加えて住宅投資の調整局面も短期に終息する見込み等から、軟着陸の見通しが強まった。米国景気の牽引力がこうして幾分弱まる一方で、BRICs など新興市場諸国の成長は衰えをみせず、さらには、日・欧経済も自律的な成長軌道に乗って、成長の支えは多極化しており、2007 年の世界経済はやや減速するとはいえ、堅調な伸びを続ける見通しである。
- (3) 今回調査の現地回答を基に、主要国および地域別の 2007 年の見通しをみると、全ての国、地域がプラス成長となる見込みとなっている。アジアでは、中国経済が僅かに減速するものの、引き続き 9%台という高い成長を辿るとみられる。韓国、台湾は、いずれも内需の停滞を輸出の好調がカバーして、前年より僅かに減速するものの、4%台の成長を維持する見込みである。ASEAN 諸国も概ね前年並みの 4~7%台の成長を続け、ここにきて成長著しいインド経済は 7.5%と前年をやや下回るが、中国、ベトナム等とともに世界でも群を抜く高い成長率が予想される。欧米では、米国経済の成長率が 2.5%と 4 年振りに 2%台に減速するが、EU (25 ヶ国) の成長率は 2.4%と米国に及ばないとはいえ、一時期の停滞を脱して潜在成長率並みの成長ペースが定着化してくる見通しである。CIS では、ロシア経済が引き続き石油収入を背景に堅調に推移し、また、中東産油諸国も世界平均を上回る高い成長が見込まれる。その他の地域では、中南米のメキシコ、ブラジルでも 3%台半ばの底堅い伸びが見込まれ、大洋州でも、豪州経済は僅かに鈍化するものの安定成長が続くと予想される。

(第 1 図) 主要国の実質経済成長率 (単位・%)



(第1表) 主要国の実質経済成長率見通し

(単位: %)

国・地域		2005年	2006年見込み	2007年見通し	
アジア	中国	10.2	10.4	9.6	
	韓国	4.0	4.8	4.3	
	台湾	4.0	4.3	4.1	
	香港	7.3	6.4	4.8	
	ASEAN	タイ	4.4	5.0	4.5
		マレーシア	5.2	5.9	6.0
		シンガポール	6.4	7.8	5.2
		インドネシア	5.6	5.6	6.0
		フィリピン	5.0	4.8	5.0
	ベトナム	8.4	7.9	7.8	
	インド	8.4	8.1	7.5	
中近東	イラン	5.4	5.2	4.9	
	サウジアラビア	6.5	5.8	6.5	
	U.A.E.	8.2	6.7	6.0	
欧州	EU25	1.7	2.8	2.4	
	英国	1.9	2.7	2.7	
	ドイツ	0.9	2.4	1.2	
	フランス	1.2	2.3	2.1	
	チェコ	6.0	6.0	4.9	
	ノルウエー	2.3	2.1	2.9	
	トルコ	7.4	6.0	5.0	
	ロシア	6.4	6.5	5.5	
	ウクライナ	2.6	5.5	6.5	
北米	米国	3.2	3.1	2.5	
	カナダ	2.9	2.8	2.5	
中南米	メキシコ	3.0	4.5	3.4	
	ブラジル	2.3	2.9	3.5	
豪州		2.9	3.5	3.4	
(日本)		1.9	2.8	2.0	

(第2表) 2006年と2007年の主要国別経済情勢

	2006年見込み	2007年見通し
中国	マクロコントロールの影響が現れ、固定資産投資の伸びは鈍化しているが、輸出の伸びが高まってこれをカバーしたことから、通年の実質 GDP 成長率は前年に続いて 10% 台に乗せる見込みである。産業活動は 1~9 月工業生産額で前年同期比 17.2% 増と大幅増を続けているが、白物家電、OA 機器などの一部に普及の一巡から生産の伸び鈍化が窺われる一方、自動車、携帯電話、PC やその素材等は前年水準を 3 割前後上回って推移。	安定成長に向けた政府マクロコントロールの継続が見込まれ、加えて、米国景気の先行き不透明感もあって、固定資産投資や輸出の伸びは緩やかに鈍化していく可能性が高い。賃金水準上昇に伴って消費が着実に伸び率を高めていくと予想されることから、引き続き経済の高成長が維持される見込みであるが、07 年通年ではプラス 9.6% 程度。
韓国	輸出の好調、民間設備投資の回復の一方、民間消費が低迷し、また、不動産規制等により建設景気が沈滞して、上半期には成長が停滞したが、下半期には輸出が予想以上に健闘したことなどから、通年の経済成長率はプラス 4.8% と、前年の伸びを上回った。	07 年も、個人消費が実質賃金の伸び鈍化や消費者心理悪化から停滞することなどから内需は盛上がり欠けものの、引き続き輸出が牽引役となって、全体で 4.3% 程度の成長が見込まれる。期別には、上半期に鈍化した後、下半期に回復する見通し。

		2006 年見込み	2007 年見通し
台 湾		輸出は比較的高い伸びを維持したが、内需は、個人消費の伸びが鈍化したほか、総固定資本形成は、前年高水準だった民間設備投資が頭打ちとなったことや高速鉄道建設工事がピークを越えたことなどから停滞した。	年前半には世界経済の減速に伴い輸出も鈍化する見込みであるが、年後半には、在庫調整の進展から投資の伸びが回復するほか、消費も、カードローン問題の最悪期脱出、自動車需要の持ち直しから、緩やかながら改善する見通し。
A S E A N	タ イ	06 年実質経済成長率は一般の予想を上回る 5.0%程度と予想されるが、これは、自動車、エレクトロニクス等工業製品の輸出が好調であったことや、原油価格の軟化でインフレが抑制され、民間消費と、投資の拡大が期待できることによるもの。政情不安に一応の決着がついたこともプラス要因。	米国を初めとする世界経済減速のため輸出の鈍化、貿易収支の悪化が懸念されるが、内需の伸びがこれを打ち消すとみられる。特に、政情が安定すれば、メガプロジェクトの開始が期待され、民間投資を刺激することも予想される。
	マレーシア	製造、サービス、農業など国内産業活動は活況。第 9 次マレーシア計画のスタートで年後半から国内需要の増加が期待される。経済成長率は前年を上回る 5.9%程度となると見込まれる。	07 年も好調な内外需要を背景に、成長率は僅かながら加速して 6.0%程度の伸びが予想される。
	インドネシア	年初に、05 年 10 月の石油燃料値上げの影響等が残ったほか、国の予算執行の遅延があったことなどから、06 年の経済成長は当初計画に届かない見込みである。	07 年政府予算で 6.4%の成長が目標になる見込みであるが、原油価格水準が引き続き高く、インフラ開発事業の遅れなどもあって、6%程度の成長率にとどまる見通しが強い。
	ベトナム	雇用増や海外からの順調な送金を背景に個人消費が好調であることに加え、国際商品市況の高値推移で輸出も高い伸びを記録。製造業活動も好調に推移している。	順調な外国直接投資の増加や賃金上昇に伴う個人消費の伸びなどから、高成長が続くみこみであるが、インフレ懸念が持続すれば金融引締めの可能性もある。
インド		自動車や携帯電話などの需要拡大を受けて、製造業活動を中心に鉱工業生産の伸びが目立ち、年度初めから足元（4～7 月）までの前年同期比伸び率は 10.6%増となった。月別の 7 月の伸び（12.4%増）はかつてない高い伸びだった。	中間層の興隆に伴う消費市場の拡大、IT 等知識集約型産業の急成長などに支えられ、07 年 4 月にスタートする第 11 次 5 ヶ年計画（年平均 9%の経済成長目標）は順調に滑り出す見込み。但し、目標達成には今後 5 年で約 3,000 億ドルにのぼるインフラ投資が急務。
サウジアラビア		夏以降原油価格が軟化したものの、石油収入の高位安定が続いており、財政黒字を背景にインフラ整備、民活大型プロジェクト投資が行われている。	原油産出量は若干減少の見込みであるが、投資プロジェクトの推進が継続する見込みである。
EU25		雇用環境改善とともに個人消費が持ち直したほか、生産の拡大、低金利を背景に設備投資も増加した。サッカーワールドカップや 07 年初からのドイツ付加価値税引き上げの駆け込み等の特殊要因も域内需要を押し上げた。04 年新加盟 10 ヶ国でも海外資本の流入を背景に高成長持続。	ドイツの増税に加え、ドイツ、イタリアで財政再建に向けた緊縮財政が採られることなどから、成長のテンポは緩やかになるとみられるが、域内全体としては民間需要を中心に堅調な推移が見込まれる。貿易面では、輸出はユーロ高から、輸入は資源価格の落ち着き等から増勢鈍化。
ロシア		石油収入に支えられた巨額の貿易黒字で財政の安定化、健全化がもたらされており、そのなかで、実質賃金上昇、銀行ローンなど信用増加を背景とする個人消費の好調が主導して高い経済成長が維持されている。	国際原油市場では逼迫傾向が続き、原油市況は高止まり推移するとみられることから、ロシアは引き続き高い経済成長を辿る見込み。但し、輸出の鈍化が国内設備投資を停滞させるマイナス要因となることも懸念される。
米 国		住宅建設が調整過程にあり、自動車部門も在庫調整局面にあるが、民間の消費や設備投資は概して堅調であり、雇用情勢も安定している。クリスマス商戦の出足も好調と伝えられ、減速傾向にあるとはいえ、通年の実質経済成長率は 3.1%程度となると見込まれる。	住宅建設活動の調整は長引かないとの見方が支配的であるが、06 年上期水準の回復は困難とみられる。自動車生産の低下も想定されているが、経済のファンダメンタルズは強く、実質 2%台半ばの成長は可能とみられており、FRB が景気刺激の利下げに踏み切る可能性は小さい。
ブラジル		金利引下げの一方物価は安定しているが、通貨レアルの急激な切り上げの影響で経済成長率が鈍化し、通年の成長率は 2 度にわたって下方修正された見通しの 3.2%をも下回る見込み。	米国経済、国際商品市況などの外的リスクを除けば経済成長の持続が見込めるが、06 年 10 月に再選された第 2 期ルラ政権には成長率の加速が急務となっている。これまでの緊縮財政から積極財政への転換が期待されている。
豪州		住宅建設の回復が続いたが、中国を中心とする旺盛な需要を受けて鉱山を初め資源の豊かな西オーストラリア、クィーンズランド等の地域で高い成長が続いた。	07 年には世界景気の減速から、僅かながら豪州経済の成長率も鈍化する見通し。資源地域は好調持続も、製造業が立地するビクトリア、サウスウェールズでは低成長ないしはゼロ成長。

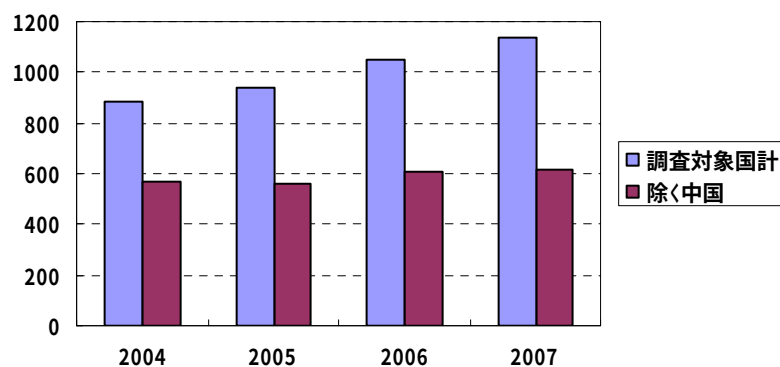
II. 世界鉄鋼需給

A. 鉄鋼需要

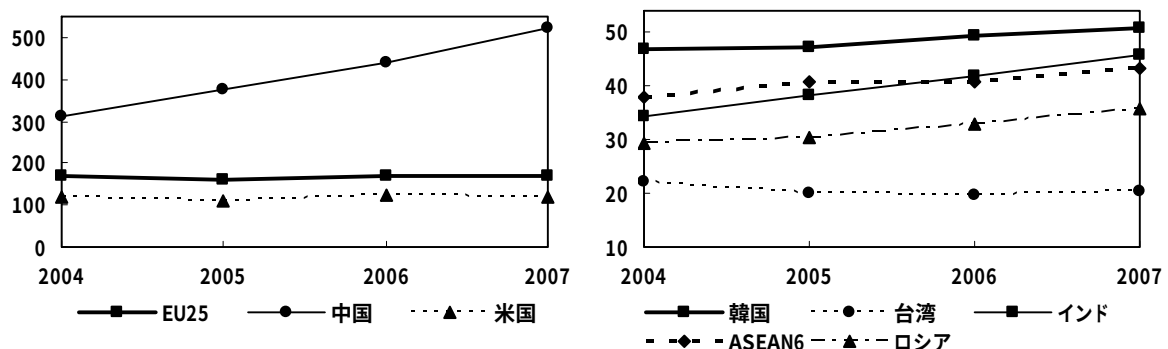
1. 2006 年は世界的に需要が増加、2007 年は中国以外は横這いへ

- (1) 2006 年の鉄鋼需要量（鋼材見掛消費ベース）は、アンケート調査対象の 23 ヶ国・1 地域でみると、前年比 11.8%、1 億 1,070 万トン増の 10 億 4,900 万トンと、世界的な好景気による鉄鋼需要の拡大を反映して二桁を超える高い伸びとなった。国・地域別にみると、最大の増加国は 10%を超える経済成長を達成することがほぼ確実な中国であり、同 17.4%、6,550 万トン増と前年に続いて大幅な増加量となった。また、05 年には在庫調整局面を迎え減産が長期化した米国、EU 等も在庫調整を終えた 06 年年初から鋼材需要は順調に回復し、それぞれ同 14.4%、1,570 万トン増、同 8.0%、1,270 万トン増と大きく増加した。インドも経済の高成長を背景に鋼材需要が継続的に拡大しており、06 年は同 10.0%、380 万トンの伸びを見た。その他、韓国、トルコ、ロシア、メキシコ、ブラジル等でも主要需要産業の活動が好調で、鉄鋼需要量も軒並み 200～250 万トン超の増加となっている。一方、ASEAN（主要 6 ヶ国計）や中近東は比較的高水準ながらも前年比では横這いとなっている。調査対象国から中国を除いた需要の合計は、同 8.0%、4,520 万トン増の 6 億 700 万トンで、前年のマイナス成長から一転、極めて高い伸びを示した。
- (2) 2007 年の鉄鋼需要は、調査対象国全体で前年比 8.5%、8,880 万トン増の 11 億 3,800 万トンと、06 年に比べ伸びがわずかに鈍化するものの拡大ペースは衰えないと予想される。国・地域別にみると、最大の増加国は引き続き中国であり、需要量は見掛消費ベースで同 17.9%、7,900 万トン増と前年を上回る伸びを示すと見られる。また、インドも同 9.1%、380 万トン増となる他、韓国、ASEAN（6 ヶ国）、ロシア、ブラジルも 150～300 万トンの増加となる見通しである。一方、EU やカナダは微減となり、米国も 06 年末からの在庫調整が年初まで続くこととみられ、4%強の減少を見込んでいる。この結果、調査対象国から中国を除いた合計は、同 1.6%、980 万トン増の 6 億 1,700 万トンとなる見込みである。

（第 2 図）調査対象 23 ヶ国・1 地域計の鋼材見掛消費推移（単位:100 万トン）



（第 3 図）主要国・地域の鉄鋼需要量推移（単位:100 万トン、鋼材見掛消費ベース）



(第3表) 主要23ヵ国・1地域の鋼材見掛消費見通し

		鋼材見掛消費(100万ト)			伸び率(%)	
		2005年 (実績)	2006年 (見込み)	2007年 (見通し)	2006/2005	2007/2006
アジア(11)	中国	376.5	442.0	521.0	17.4	17.9
	韓国	47.1	49.2	50.8	4.4	3.2
	台湾	19.9	19.8	20.5	▲0.8	3.7
	香港	1.5	1.2	1.1	▲20.1	▲5.7
	タイ	14.1	13.4	14.0	▲5.3	4.5
	マレーシア	6.7	6.9	7.3	2.6	5.8
	シンガポール	2.9	2.9	3.3	1.5	13.8
	インドネシア	7.2	6.8	7.2	▲6.0	5.9
	フィリピン	2.7	3.0	3.2	12.0	6.7
	ベトナム	7.0	7.7	8.4	10.0	10.0
	A S E A N 6 計	40.6	40.7	43.4	0.1	6.8
中近東(3)	インド	38.1	41.9	45.7	10.0	9.1
	アジア(11)計	523.7	594.7	682.5	13.6	14.8
	イラン	16.1	16.1	16.5	0.0	2.5
	サウジアラビア	6.6	6.8	7.3	3.3	6.7
欧州(4+1地域)	U . A . E	5.6	5.7	5.9	1.5	3.2
	中近東(3)計	28.3	28.6	29.6	1.1	3.6
	英国	11.3	11.8	12.0	3.8	2.0
	ドイツ	35.5	38.0	37.0	7.2	▲2.6
	フランス	15.1	16.4	15.9	8.6	▲3.0
	チェコ	5.2	5.5	5.7	5.1	3.6
	E U 2 5 ヲ国	158.8	171.5	169.6	8.0	▲1.1
	ノルウェー	1.3	1.2	1.4	▲4.0	12.5
	トルコ	18.5	21.0	22.3	13.3	6.2
	ロシア	30.5	32.9	35.6	8.0	8.1
	ウクライナ	8.2	8.8	9.7	7.3	10.2
北米(2)	欧州(4+1地域)計	217.3	235.4	238.5	8.3	1.3
	米国	109.6	125.3	119.7	14.4	▲4.4
	カナダ	16.8	17.6	17.5	5.0	▲0.6
	北米(2)計	126.3	142.9	137.2	13.1	▲4.0
中南米(2)	メキシコ	16.7	19.4	20.0	15.7	3.2
	ブラジル	16.8	18.9	20.6	12.4	9.2
	中南米(2)計	33.6	38.3	40.6	14.0	6.1
豪州		9.0	9.0	9.1	▲0.0	1.4
23ヵ国・1地域合計		938.1	1,048.8	1,137.6	11.8	8.5

(除く中国計)	561.7	606.8	616.6	8.0	1.6
---------	-------	-------	-------	-----	-----

注：増減率は原数値による。

(第4表) 主要国別鉄鋼需要の概要

	2006 年見込み	2007 年見通し
中 国	家電、船舶等製造業向け鋼材需要が大きく伸長。固定資産投資も高位の伸びを示し、建材需要も堅調。冬場に建材需要が落ち込むとみられるが、全体として拡大続く。	生産は前年並みの増加。輸出は政府の抑制策や対外的通商摩擦が懸念されるが、一定量はあるものと予想される。輸入は前年並み。全体として見掛消費は17%を超える拡大を続ける見通し。
韓 国	自動車は国内需要は不調ながら輸出が増加。一方、造船はウォン高で採算は悪化するも、高付加価値船舶の受注が堅調に推移。これら需要産業の旺盛な需要に支えられ鋼材消費は増加。	自動車と造船の需要は引き続き堅調に推移する見通し。一方、建設は都市開発計画に基づくプロジェクトが複数着工される見通ししながら、全体としては低調が続く。
台 湾	株式市況の好況等プラス要因はあるが、自動車販売の低迷など IT 関連以外の製造業は全般に競争力が低減しており、内需の伸びは期待できない。	06年に引き続き大きな国内投資プロジェクトが見当たらず、また政治的混乱で島内への投資が抑制的になっていること等から、大幅な需要回復は困難とみられる。
ASEAN	タイは過剰在庫整理により国内需要回復も、その後の政変により建築・土木が落ち込んだ。自動車が底支えしているが全体では前年割れ。インドネシアは住宅が停滞するもインフラ関連の土木が需要を後押し。マレーシアは建設・自動車は低調ながら石油・ガス関連を筆頭に造船・重機・産機が拡大。シンガポールは個人消費や建設など内需が好調。ベトナムも経済好調により年10%の伸び。フィリピンは需要上昇。主要6ヵ国計では横這いの見込み。	タイは鉄道建設等公共関連で伸びを期待。自動車・家電を中心に経済成長率並みの伸びとなる。インドネシアは建設需要は一巡だが外国投資、自動車、二輪、石油・ガスが伸長し、経済成長率並みの伸びを期待。マレーシアも自動車と公共投資の増大が見込まれ引き続き好調に推移。シンガポールも建設を中心に10%以上の伸び見込む。ベトナムは外国投資とインフラ整備の進展から建設・製造業を中心に10%程度の伸びを予想。フィリピンはやや上昇。主要6ヵ国計の需要の伸びは7%弱を見込む。
E U	EU 経済は上半期から加速し、建設、機械、家電、造船、鋼管製造等の産業が好調。鋼材需要は年初から堅調に推移しており、9～10月に在庫調整局面があったものの、足下は持ち直している。鉄鋼需要産業の活動は全体で前年比8%増を見込む。	米国を中心とする世界景気の減速、金利引き上げの継続、ドイツの財政支出削減や付加価値税の増税、ユーロ高等、欧州経済に対する懸念材料が多く、07年の鋼材消費は前年比微減となる可能性が高い。
ロシア	石油・ガス業界の活発な掘削活動により鋼管需要が増加、更には類を見ない住宅建築ブームによる建設関連需要の拡大、造船の好調等により厚板、形鋼類の増加が見られる。	06年同様、鉄鋼需要は旺盛。大型パイプラインプロジェクトの着工により更に鋼管需要は増加すると考えられる。
米 国	年央以降、住宅着工は減少しているが、昨年から非住宅建設が好調を持続し、またハリケーン被害地の復興需要もあり需要は増加。但し、需要家・流通とも買付に走ったため年末には記録的高水準の在庫となった。	第1四半期まではBIG3の減産が継続される見込みで、需要の増加は期待薄。建設関連需要は底堅い見込みだが、記録的に積み上がった在庫があり、全般的に06年比で減少する見込み。
メキシコ	年末にかけ在庫が減少。自動車と建設が急速に成長し鋼材消費も大幅な伸び。鋼板、建材、鋼管の輸入が大きく増加している。	建設需要が若干減、自動車も成長鈍化から鋼材消費の伸び率は06年比で鈍化を見込む。
ブラジル	鋼板類は05年の過剰在庫が解消し、特に自動車・部品向けが堅調。一方、農業機械は落ち込んでいる。また、第4四半期からは大径管用厚板の国内出荷が急増。	大径管用厚板需要増は07年一杯続く見込み。自動車生産は史上最高の06年実績を上回ることが期待されているが、レアル高による輸出への影響が懸念される。

2. 鋼材在庫動向—2007 年は在庫調整が進展

(1) アンケートベースで得られた主要国の流通およびユーザー段階の在庫動向を整理すると（第 5 表参照）、21 ヶ国延べ 42 回答のうち 2006 年末現在の在庫水準を「過剰」とするものが 2、「やや過剰」が 11、「適正」が 12、「やや過少」が 16、「過小」は 1 で、全体としては在庫を過剰とみる回答と過少とみる回答が拮抗した。地域別には北米と ASEAN を含むアジア地域で過剰ないしやや過剰とみる向きが多く、欧州、中南米は適正からやや過少に振れている。在庫が「過剰」もしくは「やや過剰」とする回答のうち、06 年末現在で在庫削減中とする回答は東南アジアの 3 件のみだが、2007 年中に減少に転じるとみる回答が米国、韓国を含めて 8 件あり、07 年は在庫調整が進展する見通しである。一方、在庫が「やや過小」となっている諸国では 07 年年央までに増加に転じるとみる回答が多い。

(2) 主要国別見通しは以下の通り。

- **中国**では流通在庫は熱・冷延鋼板が過剰となっているが、高級グレード品にタイト感が強く、06 年末現在で全体としてやや過少となっている。これらの在庫は 06 年末現在減少傾向にあり、07 年には増加へ転じるとみられる。ユーザー在庫は現在適正であり、やや減少しているが、07 年上期には横這いへ向かうとみられる。
- **韓国**では流通在庫・ユーザー在庫ともやや過剰で、06 年末現在増加傾向が続いている。品種別には中国からの輸入増等により熱・冷延鋼板、亜鉛めっき鋼板等の在庫が多く、（造船用）厚板、カラー鋼板、方向性電磁鋼板が不足している。在庫は 07 年下半期にはやや減少に転ずるとみられる。
- **台湾**では流通在庫はやや過剰、ユーザー在庫は適正で 06 年末現在両者とも横這いとなっており、07 年中はこの状況に変化がないと予想される。流通では熱・冷延鋼板の在庫が多く、また流通・ユーザーとも電気亜鉛めっき鋼板の在庫が少ない。
- **ASEAN** 諸国では、シンガポールとフィリピンの在庫が適正もしくはやや過少、タイ、マレーシア、インドネシアの在庫は概ねやや過剰の状況にある。過剰気味の在庫はマレーシアを除いて減少する傾向にある。
- **EU** では英国とフランスの在庫がやや過小で、ドイツは適正水準にある。06 年末現在英国とドイツの在庫は減少傾向にあり、フランスの在庫は増加傾向にある。07 年は 3 ヶ国とも在庫の増加が予想されている。
- **米国**では流通在庫、ユーザー在庫とも過剰で横這い基調にあり、07 年上半期には減少に向かうとみられる。流通・ユーザーとも薄板類全般に渡って在庫が多く、電磁鋼板・電気亜鉛めっき鋼板の在庫が少ない。
- **ブラジル**では流通在庫がやや過少、ユーザー在庫は適正水準となっており 06 年末現在両者とも横這いとなっている。これらの在庫は 07 年上半期にやや増加に転ずると予想される。熱・冷延鋼板の在庫が多く、厚板、自動車用溶融亜鉛めっき鋼板等の在庫が少ない。

3. 主要需要産業の 2007 年活動見通し—非住宅、石油ガス、造船は好調持続

(1) アンケート回答により主要国の鉄鋼需要産業の活動状況をみると（第 6 表参照）、2006 年は全般に好調に推移した。特に中国は主要部門すべての活動が高水準だった。また、東南アジアやインド、トルコ、ロシア、ブラジル等の需要産業も活発であった。米国は非住宅と石油・ガス開発が活発だったものの、住宅が大きく落ち込んだ他、自動車も不調が表面化するなど全体としてやや伸びを欠く展開となった。EU は各部門ともおおむね前年並みの水準で推移した。2007 年には中国、インド、ブラジルが各部門で引き続き好調を維持すると予想される他、東南アジア、サウジ、カナダ等の諸国の産業も総じて上向くとみられる。米国、EU では英国が上向く他は、横這いか産業によっては下降が予想される。

(第5表) 主要各国の鋼材在庫動向

2006年末 在庫水準		在庫変化			
		2006年末 現在	2007年		
			上半期	年央	下半期
過剰	米国（流通）	=	▼		
	米国（ユーザー）	=	▼		
やや過剰	韓国（流通）	△			▼
	韓国（ユーザー）	△			▼
	台湾（流通）	=			
	香港（流通）	=	▼		
	香港（ユーザー）	=	▼		
	タイ（ユーザー）	▼	=		
	マレーシア（流通）	=			▼
	マレーシア（ユーザー）	△			=
	インドネシア（流通）	▼		=	
	インドネシア（ユーザー）	▼		=	
	カナダ（流通）	△	▼		
適正	中国（ユーザー）	▼	=		
	台湾（ユーザー）	=			
	タイ（流通）	=			
	シンガポール（流通）	=		▼	
	フィリピン（ユーザー）	=		△	
	サウジアラビア（ユーザー）	▼	△		
	ドイツ（流通）	▼		△	
	ドイツ（ユーザー）	▼		△	
	カナダ（ユーザー）	=			
	ブラジル（ユーザー）	=	△		
	豪州（流通）	=			
	豪州（ユーザー）	=			
やや過少	中国（流通）	▼		△	
	シンガポール（ユーザー）	▼	▼		
	フィリピン（流通）	=		△	
	インド（流通）	=			
	サウジアラビア（流通）	=		△	
	英国（流通）	▼	△		
	英国（ユーザー）	▼	△		
	フランス（流通）	△	△		
	フランス（ユーザー）	△	△		
	トルコ（流通）	=			
	トルコ（ユーザー）	=			
	ロシア（流通）	△		△	
	ロシア（ユーザー）	=			
	メキシコ（流通）	▼		△	
	メキシコ（ユーザー）	▼	△		
	ブラジル（流通）	=	△		
過少	インド（ユーザー）	▼			

注：記号は在庫変化で、△は増加、＝横這い、▼減少。

(2) 主要部門別見通しは以下の通り。

- **建設**のうち、住宅の2006年の活動は中国、インド、ロシア、カナダ、メキシコ、ブラジル等が高水準であり、これらの国では07年も概ね好調に推移するとみられる。一方、台湾、ドイツ、米国は不調で、07年も回復は期待できない。非住宅・土木の06年の活動は韓国、台湾、フィリピンを除いて全世界的に活発化しており、07年も引き続き活動水準の上昇が見込まれている。
- **石油・ガス開発**は、06年もエネルギー価格の高騰を背景に全世界的に好調を持続した。07年も油価は若干下降しているが、世界的な需要の伸びは高水準を維持しており、06年同様高水準の活動が続くと見込まれる。
- **自動車・同部品**は、06年は国によりまだら模様となった。中国は生産が20～30%増加し、好調を持続。タイ等も旺盛な輸出市場に支えられ堅調に伸びている。一方、米国はガソリン価格の高騰により減速、台湾、マレーシア等も減少となった。EU、ロシア等は前年並みの活動水準となった。07年はフランス、米国、豪州を除いて多くの国で活動水準の上昇が見込まれている。
- **造船**は、06年は韓国、中国、台湾の主要3カ国がいずれも好調。韓国の受注は前年比23.3%の大幅増となる見込み。中国の世界シェアも約16%に達した。3カ国とも2010年までの受注残を有しており、07年も好調を維持すると見込まれる。
- **機械**は、06年は中国でエネルギー需要が旺盛だったことから、建機が高水準で推移した。アジアは総じて拡大基調を継続、全体として堅調な推移を見せた。07年もEUの一部と豪州を除いて全般に活動水準は好調を持続する見込み。
- **家電**は、06年は中国を含むアジア地域、インド、トルコ、カナダ、ブラジル等で好調が続いた。07年は米国、韓国等で活動水準の低下が見込まれるが、全般的には活動の上昇を見込む国が多い。

(第6表)主要鉄鋼需要産業の2006年活動水準と2007年活動見通し

	住 宅 建 築	非住宅 建 築	土 木	石油ガ ス開発	自動車 ・ 部品	造 船	機 械	家 電
中 国	高△	高△	高△	高＝	高△	高△	高△	高△
韓 国	普＝	低▼	低▼		高△	高△	普△	普▼
台 湾	低＝	低＝	普＝		低＝	高＝	普＝	高△
香 港	普＝	普△	普△		高△			高△
タ イ	普＝	普△	普△	高△	高△		高△	高△
マレーシア	普△	普△	普△	高＝	低△	普△	普△	高△
シンガポール	高＝	高△	高△		普＝	高＝		普▼
インドネシア	普△	高△	普△	高＝	低△	高△	高＝	低△
フィリピン	普＝	低＝	低△		普△	高△		普▼
イ ン ド	高△	高△	高△	普△	高△	普△	普△	高△
サウジアラビア	高△	高△	高△	高△				普＝
英 国	普△	普△	普△	普▼	普△		普▼	普△
ド イ ツ	低＝	普▼	普▼		普＝	高＝	高▼	普＝
フ ラ ン ス	普▼	普＝	普＝	高＝	低▼		高△	普＝
ト ル コ	高＝	高△	低＝	普＝	高△	高△	普＝	高△
ロ シ ア	高＝	高＝	低＝	高△	普＝	高△	普＝	普＝
米 国	低＝	高＝	普＝	高＝	普▼	普▼	普＝	普▼
カ ナ ダ	高△	高△	高△	高＝	普＝		普△	高△
メキシコ	高△	高▼	高▼	普＝	高△	低＝	普△	普△
ブラジル	高△	普△	普△	普△	高△	低△	高△	高△
豪 州	普▼	高＝	高＝	高＝	低▼	低▼	高▼	普▼

注：2006年の活動水準（高：高水準、普：普通、低：低水準）

2007年の活動予想（△：上昇あるいはやや上昇、＝：横這い、▼：下降あるいはやや下降）

B. 鉄鋼生産 — 2007 年は前年比 7.4%増、伸びは鈍化も中国を牽引役に生産拡大が続く

(1) 調査対象 23 カ国+1 地域（EU25 カ国）における 2006 年の粗鋼生産は、総計で前年比 10.4%・1 億 40 万トン増の 10 億 6,270 万トンと過去最高を更新する見込みである（第 7 表）。特に、生産高トップの中国は、生産能力の拡大が急激に進んでおり、同 20.2%・7,060 万トン増の 4 億 2,000 万トンと、引続き世界の粗鋼生産の伸びを牽引している。また、05 年下期に需給調整のための減産措置がいち早く講じられた欧米では、需給バランスの改善を受けて 06 年上期に前年水準を大きく上回る生産が行われたほか、世界的に鉄鋼需要が好調を持続する中であって、韓国、台湾、インド、ロシア、ウクライナなどその他の主要製鉄国でも生産量が増加、高炉事故の影響で減産となったブラジルを除き、多くの国で粗鋼生産は前年水準を上回った。ただし、中国の大幅な増産に伴う輸出急増等から、中国をはじめアジア諸国からの鋼材輸入が大幅に増加した米国では、在庫の積上がりが見られ、年末にかけて需給調整へ向けた減産が一部で表面化している。

(2) 2007 年の調査対象 23 カ国・1 地域合計の粗鋼生産は前年実績見込み比 7.4%・7,890 万トン増の 11 億 4,160 万トンと、伸びは鈍化するものの引続き増産となる見通しである。

国別にみると、中国は、鉄鋼産業政策が強化され、立遅れた能力の淘汰が進むとみられるが、旺盛な内需や高水準の輸出により、生産は高い伸びを持続すると予想される。また、ブラジルでも新高炉の稼働等を受けて大幅な増産が見込まれる。多くの国で増産が見込まれる中、米国では年前半に在庫調整に向けた減産が行われるほか、EU でも一部ミルによる減産が年初に行われ、通年の粗鋼生産は前年割れとなる見通し。

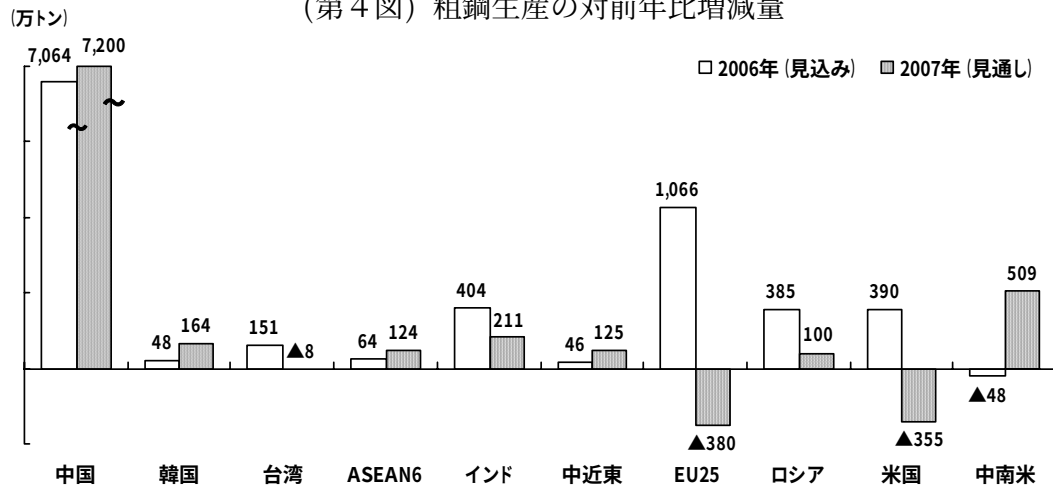
(第 7 表) 主要 23 カ国・1 地域の粗鋼生産見通し (単位: 100 万トン)

	2005年 実績	2006年 見込み	2007年 見通し	増減率 (%)	
				2006/2005	2007/2006
中国	349.4	420.0	492.0	20.2	17.1
東南アジア(10)	119.7	126.4	131.3	5.6	3.9
韓国	47.8	48.3	49.9	1.0	3.4
台湾	18.6	20.1	20.0	8.1	▲ 0.4
タイ	5.3	5.2	5.2	▲ 2.6	0.8
マレーシア	5.3	5.4	5.8	2.0	7.4
シンガポール	0.6	0.6	0.6	4.9	0.0
インドネシア	2.8	2.9	3.1	3.6	6.9
フィリピン	0.5	0.4	0.4	▲ 14.9	0.0
ベトナム	0.8	1.4	2.0	79.5	42.9
インド	38.1	42.1	44.2	10.6	5.0
中近東(3)	13.7	14.1	15.4	3.4	8.8
イラン	9.4	10.0	10.5	6.3	5.0
欧州(4+1 地域)	313.8	332.3	331.2	5.9	▲ 0.3
EU25	187.3	198.0	194.2	5.7	▲ 1.9
ロシア	66.1	70.0	71.0	5.8	1.4
ウクライナ	38.6	40.6	41.5	5.1	2.2
北米(2)	110.2	114.7	111.4	4.1	▲ 2.9
米国	94.9	98.8	95.3	4.1	▲ 3.6
中南米(2)	47.8	47.3	52.4	▲ 1.0	10.8
メキシコ	16.2	16.3	16.3	0.6	0.0
ブラジル	31.6	31.0	36.1	▲ 1.8	16.4
豪州	7.8	7.9	8.0	1.8	0.6
対象23カ国・1地域計	962.3	1,062.7	1,141.6	10.4	7.4

(除く中国計)	612.9	642.7	649.6	4.9	1.1
---------	-------	-------	-------	-----	-----

注：増減率は原数による比率

(第4図) 粗鋼生産の対前年比増減量



(第8表) 主要国別鉄鋼生産動向

	2006 年見込み	2007 年見通し
中 国	製造業・建設業共に需要好調。一方、能力増強が急激に進む中、粗鋼生産は約7千万トン増加し、4億トンを突破。内需の伸びを上回る増産が輸出の急拡大に繋がった。	政府は一連の産業政策実施を強化する方針で立遅れた能力の淘汰が進むとみられるが、旺盛な内需や高水準の輸出により、生産は高い伸びを持続する見通し。
韓 国	自動車・造船など製造業向け需要は好調。春にPOSCOで高炉巻替え工事が行われたが、電炉鋼を中心に粗鋼生産は前年を若干上回る見込み。	POSCOのFINEX稼働、現代製鉄唐津A地区熱延工場の電炉1基再稼働、特殊鋼メーカーの設備増強等により前年比3%強の増産となる見通し。
台 湾	中国鋼鉄の高炉補修が完了し、電炉メーカーの減産も一段落。輸出が増加する中、生産は約8%増の見込み。	内需が前年同様力強さを欠く中で、輸出も中国、米国向けを中心に頭打ちとなり、生産は微減となる見通し。
ASEAN 諸国	タイ、フィリピンの生産は減少、一方、内需が大幅に拡大しているベトナムでは、電炉工場の稼働が相次いでおり大幅な増産が見込まれる。	タイは微増、マレーシア、インドネシアは内需の増勢が再び強まり前年比7%程度の増加。一方、ベトナムは、06年に引続き大幅増となる見通し。
インド	エネルギー・インフラ・自動車を中心に需要は好調。能力増強も進んでおり、生産は約10%増の見込み。	インフラ整備等が進む中、内需は好調を持続。能力増強も相俟って、生産は堅調に拡大する見通し。
E U	内需が堅調な中、前年下期の在庫調整が早期に完了し、上期の生産は大幅に増加。下期は輸入が急増する中、一部域内ミルが減産を表明したが、全体では5%を超える伸びが見込まれる。	実需の伸びが鈍化すると見込まれる中、粗鋼生産は年初の一部ミルの減産等もあって、前年比微減程度に止まる見通し。
ロシア	住宅、エネルギー部門で需要が旺盛、国内ミルの設備投資・合理化も進展し、生産は約6%増の見込み。	内需は好調を持続、国内ミルではさらに設備投資・合理化を進める予定。生産は高水準を維持する見通し。
米 国	内需は堅調を維持。05年下期に在庫調整が進展し、06年上期の生産は大幅に増加したが、輸入急増等から在庫が積上がり、年末にかけて再び在庫調整へ。通年では増産の見込み。	BIG3の減産で自動車向けは伸び悩むが、建設需要は堅調を維持。但し、06年末に過去最高水準まで在庫が積上がっており、年前半に在庫調整が行われ、通年でも前年割れの見通し。
ブラジル	過剰在庫が解消し、内需は拡大基調も、CSNの高炉事故の影響で、06年通年の粗鋼生産は減少する見込み。	内需は好調を持続、CSTの新3号高炉稼働など大手ミルを中心とした能力増強を受け大幅な増産となる見通し。

C. 鋼材輸出－世界的な鋼材需要増、国際市況安定を背景に微増

- (1) 2006 年における 23 国・1 地域の鋼材輸出量（半製品を含む）は、合計で 2 億 3,910 万トンと前年比 14.5%、3,040 万トンの大幅な増加が見込まれる。世界的な鋼材需要の堅調推移や国際市況の高位安定など輸出環境は良好で、輸出余力のある国々は積極的な輸出を展開。なかでも、中国の年央以降の増勢は際立っており、全世界に輸出ドライブをかけ世界最大の鋼材輸出国となった。全般的に中国、アジア向けから欧米、中東など需要好調な地域へのシフトが顕著となった。主要国では、中国は輸出増値税還付率の引下げや半製品への輸出税賦課が実施されたものの、欧米、韓国向けを中心に前年を 2,000 万トン以上上回り、数量は 5,000 万トン台に拡大した。その他、ウクライナは欧州や中東など近隣諸国向けを中心に増加、韓国も欧米向けが増加した。ロシアや EU は内需が好調に推移するなか、ともに前年比微減となった。
- (2) 2007 年の鋼材輸出量（23 カ国・1 地域）は、合計で前年比 1.7%、420 万トン増の 2 億 4,330 万トンと僅かながらも拡大する見通しである。世界的な鋼材需要は引続き拡大を辿るとみられるが、前年の大量流入により、米国は在庫調整に入り、欧州でも南欧では供給潤沢感が高まり、世界中に貿易摩擦懸念が拡がりをみせている中、主要輸出国は情勢を見極めた慎重な輸出を行うとみられる。主要国では、中国は、高水準の輸出続くも、半製品への輸出税賦課の影響に加え、貿易摩擦回避に向けて抑制する可能性もあり前年比若干減の見通し。ロシアは内需好調も増産に伴う輸出圧力の高まりから増加が予想され、ウクライナも近隣向けを中心に前年水準維持が見込まれる。韓国は大幅に能力が拡張するめっき鋼板を中心に、ブラジルは半製品や熱延コイルを中心に増加が予想される。一方、EU は、引続き内需優先で域外向けは減少が予想される。

(第 10 表) 主要国の鋼材輸出見通し

(単位：100 万トン)

輸 出 国		2005 年 実 績	2006 年 見込み	2007 年 見通し	増減率 (%)	
					2006/2005	2007/2006
ア ジ ア	中 国	26.4	50.4	49.6	90.7	▲ 1.6
	韓 国	15.9	18.1	19.5	13.7	7.8
	台 湾	9.2	10.2	9.5	11.2	▲ 7.0
	香 港	3.2	2.6	2.6	▲ 16.9	▲ 1.6
	A S E A N 6	8.2	8.3	9.3	0.9	11.7
	イ ン ド	5.6	6.1	6.3	8.3	3.3
(11) 計		68.6	95.2	96.2	38.8	1.1
中 東 (3) 計		2.1	2.0	2.3	▲ 4.8	15.0
欧 州	E U	32.0	31.8	30.1	▲ 0.6	▲ 5.4
	ト ル コ	12.3	13.0	13.5	5.9	3.8
	ロ シ ア	31.5	31.0	33.0	▲ 1.7	6.5
	ウ ク ラ イ ナ	27.4	30.7	31.0	12.0	1.0
(4+1 地域) 計		104.5	107.4	108.5	2.8	1.0
北 米	米 国	8.5	8.9	8.9	4.5	▲ 0.1
	カ ナ ダ	6.2	6.4	6.4	3.1	▲ 0.8
	(2) 計	14.7	15.3	15.2	3.9	▲ 0.4
中 南 米	メ キ シ コ	5.7	5.3	5.3	▲ 5.9	0.0
	ブ ラ ジ ル	12.5	12.3	14.1	▲ 1.6	14.3
	(2) 計	18.2	17.7	19.4	▲ 3.0	9.9
豪 州		0.7	1.0	1.1	38.5	5.0
23 カ国・1 地域計		208.8	239.1	243.3	14.5	1.7
(除 く 中 国)		182.3	188.7	193.7	3.5	2.6

注：①鋼材＝全鉄鋼－鋁鉄－フェロアロイ、②増減率は原数による比率

(第 11 表) 主要国の輸出動向

		2006 年見込み	2007 年見通し
中 国		生産能力拡大が進む中、国際市況が高止まりし、内外価格差が拡大したこと等から、輸出急増。欧米、韓国を中心に 5,000 万トン越え。	能力削減は緩慢で、輸出意欲は高く、高水準の輸出が予想されるものの、貿易摩擦回避のため欧米向の減少が見込まれ、半製品への輸出税賦課や鋼材への増値税還付率引下げの影響等もあり、全体では微減の見通し。
韓 国		内需が微増に止まるなか、欧米、需要好調な中東などに積極的に輸出。	内需の伸びの鈍化が予想される中、高付加価値品種の能力増強が進んでおり、こうした品種を中心に積極的な輸出を展開すると見込まれる。
台 湾		中国向け減少も、米国向け急増。国内自動車生産不振で、関連鋼材の輸出も増加。	中国向けは引続き減少、米国向けも減少する見込み。ASEAN 向けも横這いとみられ、全体では前年比マイナスと予想。
A S E A N	タイ	主要向け先での中国製品との競争激化により減少の見込み。	中国製品との競合続くも、攻勢はやや弱まると予想され、ASEAN 域内向けの増加が予想される。
	マレーシア	国内建設需要が活況を欠き鋼材輸出に拍車。熱延コイルの欧米向輸出活発化。	国内の土木・建設需要増からビレットや形鋼をはじめとする条鋼は減少する見込み。一方、能力増強が進む熱延鋼板輸出は増加の予想。
	(6) 計	域内需要が伸び悩むなか、中国材の大量流入もあり、低調に推移。	域内各国の需要回復に伴い、域内取引の活発化が予想され増加する見込み。
インド		中国向け大幅減も、中東や米国向けは好調、ASEAN 向けも堅調。	ASEAN 諸国向けや需要堅調な中東を中心に若干増が予想される。
E U	ドイツ	域内、なかでも東欧向け好調で全体でも大幅増の見込み。	東欧、中東向けは高水準を維持する見通しも、ユーロ高により域外向けは限定の可能性あり。
	フランス	域内向け堅調で、05 年をやや上回る見込み。	ユーロ高もあり域外向けは減少するとみられ、全体でも微減の見通し。
	チェコ	Mittal Ostrava 社を中心に周辺諸国へ積極輸出。	域内や安定成長を見込む周辺諸国への増加基調を持続する見通し。
	(25)計	各国ミルが内需を優先したことや、中国材の国際市場への浸透もあって前年比微減の見込み。	前年同様国内への供給が優先されるとみられ、生産能力面からも輸出余力は低く、06 年水準を若干下回るとみられる。
トルコ		電炉製品中心に米国向けが増加。主要向け先の中東、欧州向けも堅調であった。	欧州、中東向けは堅調持続の見通し。米国向けは、米国経済の動向により、減少の可能性はある。
ロシア		内需好調も、半製品や鋼板類を中心に前年水準を維持。	内需好調持続や市況安定により輸出意欲は高くはないものの、増産に伴う輸出余力の高まりもあって、前年を上回る見通し。
ウクライナ		中国向けは著しく減少も、近隣諸国向けを中心に 300 万トン以上の増加が見込まれる。	欧州諸国、エネルギー開発が活発な中東向けなどを中心に前年を若干上回ると予想される。
米国		大部分を占める NAFTA 向けは増加も国内価格は高水準で域外輸出は低調。	カナダ、メキシコ向けは堅調が見込まれるも、遠隔地では競争力なく、全体では前年並みに止まると予想される。
カナダ		大半を占める米国向けは堅調、メキシコ向けが大幅増。	米国鋼材需要は横這いとみられ、鋼材輸出は前年並みと予想。
メキシコ		大部分を占める米国向け増も、遠国向けは減少、全体でも減少の見込み。	内需は堅調で、米国の在庫水準も高く輸出増の見通しは難しく、前年比横這いとみられる。米国の需給動向により輸出が増加に転じる可能性もある。
ブラジル		欧米向け好調も、上期は内需回復や CSN 高炉事故の影響から鋼板輸出が減少、通年でも前年比若干減の見込み。	溶融亜鉛めっき、厚板などは内需優先も、CST 第 3 高炉稼動によりスラブ、HRC は 2Q 以降の輸出余力が増し、全体でも増加が予想される。

D. 鋼材輸入－欧米の高水準輸入続くも、若干増に止まる見通し

- (1) 2006 年の 23 カ国・1 地域の鋼材輸入（半製品を含む）は、前年比 7.5%、1,610 万トン増の 2 億 3,020 万トンと見込まれる。需要が底堅く、市況が高位安定していた欧米や資源・エネルギー開発関連需要が増加した国や地域が中国、CIS 諸国等輸出国からの大量の鋼材を吸収した形となった。一方で、こうした情勢が、年後半の鋼材の大量流入に見舞われた国や地域の、輸入急増への警戒感の高まりに繋がることとなった。主要市場別では、中国は輸入代替が一層進み、800 万トンを超える大幅減となったほか、需要が停滞したタイやインドネシア、台湾等アジア諸国でも輸入は減少した。一方、米国は年間を通して高水準で推移、1,300 万トンも増加し、過去最高を更新する見込み。EU も中国やロシアからの急増もあり、3,000 万トン台を大きく超える記録的輸入となった。韓国やブラジルでは自国大手ミルの設備不調もあり増加見込み。
- (2) 2007 年の鋼材輸入（23 カ国・1 地域）は、前年比 1.5%、350 万トン増の 2 億 3,370 万トンの微増に止まると予想される。引続き世界経済、鋼材需要は堅調と見込まれるが、前年世界中から鋼材を受け入れた米国が在庫調整局面に入っていることや各国で生産増に伴う自給化進展もみられること等から僅かな伸びに抑えられるとみられる。主要市場では、米国は年後半には在庫調整が一巡し、堅調な需要と相俟って、前年比マイナスながらも 4,000 万トン近い高水準が予想される。EU は、域内需要は引続き堅調に推移するとみられるなか、前年並みの高水準の輸入が見込まれる。中国は、製造業向けなど国内ミルの供給不足分を中心に前年比ほぼ横這いの見通し。韓国では、リローラーの能力増強に対する母材輸入の増加が予想される。エネルギー価格上昇を背景に需要増が続く中東、域内需要回復が見込まれる ASEAN では前年を上回る見通し。

(第 12 表) 主要国の鋼材輸入見通し

(単位：100 万トン)

輸 入 国		2005 年 実 績	2006 年 見込み	2007 年 見通し	増減率 (%)	
					2006/2005	2007/2006
ア ジ ア	中 国	27.2	19.0	19.2	▲ 30.2	1.1
	韓 国	18.6	22.3	24.3	19.9	9.0
	台 湾	11.0	10.6	10.1	▲ 3.9	▲ 5.2
	香 港	4.6	3.8	3.7	▲ 17.9	▲ 2.9
	タ イ	12.6	10.0	11.0	▲ 20.4	10.0
	ベ ト ナ ム	6.4	6.5	6.7	1.7	3.3
	A S E A N 6	36.9	34.1	37.0	▲ 7.5	8.4
	イ ン ド	5.2	5.8	6.4	10.6	10.9
	(11) 計	103.5	95.4	100.4	▲ 7.9	5.3
中 近 東	イ ラ ン	8.8	8.2	8.2	▲ 6.4	▲ 0.6
	U . A . E .	5.5	5.6	5.8	1.5	3.2
	(3) 計	17.5	17.1	17.2	▲ 2.7	0.8
欧 州	E U	27.2	35.3	35.0	29.8	▲ 0.8
	ト ル コ	9.9	11.0	12.0	11.6	9.1
	(4+1 地域) 計	44.8	53.9	55.1	20.2	2.2
北 米	米 国	29.1	42.3	39.9	45.2	▲ 5.6
	カ ナ ダ	9.7	10.9	10.8	12.0	▲ 0.7
	(2) 計	38.8	53.2	50.7	36.9	▲ 4.6
	メ キ シ コ	6.0	6.1	6.5	1.8	6.2
	中 南 米 (2) 計	6.8	8.2	7.6	21.3	▲ 7.6
	豪 州	2.6	2.3	2.6	▲ 9.8	9.8
	23 カ国・1 地域計	214.1	230.2	233.7	7.5	1.5
(除 く 中 国)		186.9	211.2	214.5	13.0	1.6

注：①鋼材＝全鉄鋼－鋁鉄－フェロアロイ、②増減率は原数による比率

(第13表) 主要国の輸入動向

		2006 年見込み	2007 年見通し
中 国		能力拡張に伴う大幅増産続き、輸入代替が一層進む。輸入は高付加価値品種へ限定される傾向が強まり、ロシア、ウクライナからの輸入は大幅に減少。	国内で供給不可能な品種を中心に横這い・微増の見通し。韓国、台湾などからの輸入は現地合併メーカーへの母材供給もあり、底固く推移するとみられる。
韓 国		POSCO の熱延ミル不調、厚板の国内供給能力不足、中国からの大量流入もあり、輸入は大幅増。	リローラーの能力増強に対し、国内ミルの母材供給能力は不十分で一定の輸入は必要。中国からの攻勢は継続の見通し。
台 湾		大規模プロジェクト外に乏しく、自動車販売なども不振でスラブを除き輸入需要減少。	鋼材内需の回復は緩慢であることや増値税還付率引下げにより中国からの増勢が弱まるとみられ、輸入は微減の見通し。
A S E A N	タイ	自動車を中心に高級鋼材需要は底堅いが、公共事業はほぼ凍結状況にあり、輸入減の見込み。	年後半より公共事業関連の需要増が期待され、パーツ高の影響もあり、鋼材輸入は前年比増の見通し。
	マレーシア	石油・ガス関連用鋼管や関連設備や大型建機用厚板、鋼管の増加が顕著。	石油・ガス関連需要は堅調持続が見込まれる。自動車関連で熱延、冷延、亜鉛めっき鋼板の若干の増加が予想される。
	シンガポール	国内供給は限定される中、鋼材需要増に伴い、輸入は増加の見込み。	大型プロジェクトの着工に伴い、建設用鋼材の増加が予想される。
	インドネシア	自動車、二輪車需要に翳りが窺え、AD により中国、ロシア、インドなどの熱延コイル輸入が抑制され、全体では数量減。	資源関連や外国投資活発化により増加に転じるとみられる。一方で、AD 懸念は拭えず、中国をはじめ輸出国からの急増はみられないと予測。
	フィリピン	中国から半製品および上工程品を中心に増加。	半製品への輸出税賦課により中国からのピレットの大幅増は見込めず。
	ベトナム	上期は中国から安値で大量流入。ロシア、ウクライナ材は中国に押され減少。好景気を反映し、鋼材内需は好調で輸入は建材を中心に増加。	隣接する中国は供給過剰もあり、同国からの輸入は更に増加するとみられる。内需は前年に続き 10% の拡大が予想され、輸入材需要は引続き高い。
(6) 計		域内内需の伸びが低迷するなか、輸入は減少の見込み。	半製品や好調な需要産業分野用の供給不足品を中心に増加の予想。
インド		外資製造業のインド進出が加速する中、ハイエンド品を中心とした輸入が増加。	国内ミルの外資製造業への鋼材供給が追いつかない状況が続き、ハイエンド品種を中心に増加が予想される。
イラン		鉄鋼内需は旺盛で 800 万トンを超える高水準維持。	石油・ガス開発関連向けで中国やインド等からの輸入増継続の可能性あり。
U.A.E.		建設ブームにより建材需要増。石油関連の鋼管需要も堅調。	建材や石油開発関連の鋼材需要の好調持続により、鋼材輸入は増加を辿る見通し。
E U		中国、ロシアからの輸入が急増。域外からの輸入は 3,000 万トンを超え、記録的水準に達する見通し。	前年の大量流入により、貿易摩擦の緊張が高まっており、更なる増加は見込めないとみられる。但し、数量規模としては高水準維持。
トルコ		内需増加に伴い、増加基調続く。ロシア、ウクライナの鋼板類が中心。	国内ミルの能力増強続くが、鋼材内需の堅調な伸び続き、輸入も増加する見通し。
米 国		旺盛な建材需要(年前半)や中国をはじめとした、各国の積極的販売により大幅増。過去最高を更新する見込み。	06 年後半に積み上がった在庫調整もあり、当面輸入は減少する見通し。年後半には需要が持ち直し、輸入回復が見込まれ、前年比マイナスながらも高水準の輸入が続く。
カナダ		主要供給国である米国からの増加に加え、中国やブラジルからの輸入も増加。	引続き米国からの輸入は増加予想。中国、ブラジル材の流入も続く見込み。
メキシコ		自動車向けに韓国からの攻勢続き、中国ミルも厚板、線材を中心に数量を激増させている。	イワラ、エネギー、建材用の鋼材需要は高く、全体では輸入は増加の見通し。中国からの急増もあり通商問題発展の懸念あり、注視必要。

(参考) 主な設備新增設・閉鎖の動き

◎は上工程、年産能力の無印は新設、+印は拡張、▲印は閉鎖

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	鞍山鋼鉄集団, 鞍鋼股份	◎	3, 200m ³ 高炉×2	500	08 年 12 月稼動予定
		◎	転炉 (260t) ×3		06 年 6 月稼動済
			スラブ連铸×2		06 年 6 月稼動済
			冷延ミル	213	06 年 5 月稼動
			熱延ミル	500	06 年 9 月稼動
			冷延ミル	100	07 年以降稼動予定
			No. 3 CGL (溶融亜鉛めっき)	40	07 年以降稼動予定
			No. 4 CGL	40	07 年以降稼動予定
			広幅厚板ミル	200	09 年稼動予定
			熱延ミル	192	09 年稼動予定
			冷延ミル	96	09 年稼動予定
	鞍鋼新軋-蒂森克虏伯镀锌钢板		No. 2 CGL	40	08 年 3 月稼動予定
	安陽鋼鉄	◎	2, 800m ³ 高炉	190	08 年稼動予定
		◎	転炉 (150t)	184	07 年 6 月稼動予定
			熱延ミル	230	08 年稼動予定
	赤峰遠聯鋼鉄	◎	450m ³ 高炉	40	06 年 1 月稼動済
		◎	転炉 (40t)	80	06 年 9 月稼動済
	青山控股集团, 河南青山金匯不銹鋼産業	◎	電炉 (20t) ×2		06 年 3 月稼動済
			連続铸造 (ブルーム)	30	06 年 5 月稼動済
	浙江青山鋼鉄		ステンレス熱延	50	07 年 12 月稼動予定
	内蒙古華業特鋼	◎	1, 060m ³ 高炉		08 年稼動予定
		◎	転炉 (25t)		06 年 4 月稼動
		◎	電炉 (50t) ×2		08 年稼動予定
			連続铸造		08 年稼動予定
			STS 厚板	30	08 年稼動予定
			STS 熱延	60	06 年 4 月稼動
			STS 冷延	30	07 年以降稼動予定
	煙台東海薄板		冷延ミル	40	06 年 5 月稼動済
	河南濟源鋼鉄, 洛陽国泰鋼鉄		線材ミル	60	06 年 6 月稼動済
			線材ミル	40	07 年稼動予定
	河北滦河実業, 鴻達熱軋	◎	転炉		06 年 5 月稼動済
	河北普陽鋼鉄		連続铸造 (スラブ)	80	06 年稼動
	河北津西鋼鉄		H 形鋼ミル	100	06 年 5 月稼動済
	河北文豊鋼鉄	◎	550m ³ 高炉	50	06 年 1 月稼動済
	華油鋼管有限公司		溶接鋼管	15	06 年 4 月稼動済
	邯鄲鋼鉄集団, 邯鄲鋼鉄	◎	3, 200m ³ 高炉	230	08 年稼動予定
		◎	転炉 (250t)		08 年稼動予定
	舞陽鋼鉄	◎	電炉	110	07 年 2 月稼動予定
			スラブ連铸		07 年 2 月稼動予定
			厚板ミル	100	07 年 2 月稼動予定
			厚板ミル	180	07 年 2 月稼動予定
			熱延ミル	200	06 年以降稼動予定
			冷延ミル	150	06 年以降稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	広東華冠鋼鉄		冷延ミル	30	06 年稼動
			亜鉛めっきライン	12	06 年稼動
			電気亜鉛めっきライン	20	06 年稼動
	広東省韶関鋼鉄		熱延ミル	392	07 年以降稼動予定
	江陰泓華彩鋼板		冷延ミル	60	06 年 12 月稼動
			溶融亜鉛めっきライン		08 年稼動予定
	江陰興澄特殊鋼鉄		棒鋼ミル(SBQ)	80	07 年 6 月稼動予定
	江蘇立新鋼管集団, 江蘇立澳鋼管		継目無鋼管	10	06 年 9 月稼動済
	江蘇其元集団, 張家港市中原制管		溶接鋼管	20	07 年 8 月稼動予定
	杭州鋼鉄		厚板ミル	200	07 年以降稼動予定
			熱延ミル	320	07 年以降稼動予定
	広州聯衆不銹鋼	◎	電炉(140t)	80	07 年 3 月稼動予定
			連続鑄造(STS スラブ)	80	07 年 3 月稼動予定
			STS 熱延	60	06 年 6 月稼動済
			STS 冷延	15	07 年稼動予定
	広州 JFE 鋼板		CGL	40	06 年 3 月稼動済
	江蘇沙鋼集団		線材ミル	100	06 年 12 月稼動済
			厚板ミル	200	07 年以降稼動予定
			冷延ミル	200	07 年以降稼動予定
	張家港浦項不銹鋼	◎	電炉(140t)	60	06 年 11 月稼動済
			STS 熱延	60	06 年 11 月稼動済
	五鉱営口中板		厚板ミル	250	07 年以降稼動予定
	湖南華菱鋼鉄集団, 湘潭鋼鉄		線材ミル	60	07 年 8 月稼動予定
			厚板ミル	140	07 年稼動予定
	漣源鋼鉄		No. 2 CGL	30	07 年以降稼動予定
	昆明鋼鉄集団, 玉溪新興鋼鉄		厚板ミル	60	06 年 2 月稼動済
	紅河鋼鉄		線材ミル	40	06 年 9 月稼動済
	玉溪新興鋼鉄		溶接鋼管	15	06 年 9 月稼動済
	済南鋼鉄		熱延ミル	250	06 年 12 月稼動済
	山西宇晋鋼鉄	◎	1, 200m ³ 高炉×2	200	07 年稼動予定
	山西環海不銹鋼鋼鉄	◎	電炉(20t)×3、連続鑄造	28	06 年 6 月稼動済
			STS 熱延	20	06 年 6 月稼動済
	山東泉信不銹鋼		STS 棒鋼	6	06 年 1 月稼動済
			STS 熱延	6	06 年 1 月稼動済
			STS 熱延	45	06 年 6 月稼動済
			STS 鋼管	6	06 年 1 月稼動済
	山東泰山鋼鉄		冷延ミル	30	06 年 5 月稼動済
	山東九州鋼業		冷延ミル	30	06 年 7 月稼動済
	四川西南不銹鋼	◎	電炉	30	06 年 3 月稼動済
		◎	電炉(50t)		08 年 7 月稼動予定
			STS 熱延	60	07 年 12 月稼動予定
	宝鋼集団, 宝山股份	◎	転炉(250t)		06 年 12 月稼動済
			連続鑄造(スラブ)	280	06 年 12 月稼動済
			熱延ミル	400	07 年夏稼動予定
			冷延ミル	190	07 年以降稼動予定
			溶融亜鉛めっきライン×2	72	08 年稼動予定
			電気亜鉛めっきライン	30	07 年 12 月稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	宝鋼集団, 上海浦東鋼鉄	◎	COREX	150	07 年 11 月稼動予定
			厚板ミル	120	08 年 3 月稼動予定
	上海梅山	◎	3, 200m³ 高炉	250	08 年稼動予定
		◎	転炉 (150t)	200	08 年稼動予定
			連続鋳造 (薄スラブ)	200	08 年稼動予定
			熱延ミル	200	08 年稼動予定
			冷延ミル	180	08 年稼動予定
	上海克虜伯不銹鋼		STS 熱延	51	07 年以降稼動予定
			STS 冷延	10	07 年以降稼動予定
	首鋼集団, 北京首鋼		冷延ミル	150	07 年稼動予定
			溶融亜鉛めっきライン	60	07 年稼動予定
			カラー鋼板ライン	20	07 年稼動予定
	首鋼遷安鋼鉄	◎	2, 650m³ 高炉	200	07 年稼動予定
			熱延ミル	200	07 年以降稼動予定
	秦皇島首秦金属材料	◎	1, 780m³ 高炉	160	06 年 5 月稼動済
			厚板ミル	120	06 年 11 月稼動済
	秦皇島首鋼板材		厚板ミル	85	06 年稼動
	水城鋼鉄		線材ミル	60	06 年 12 月稼動
	首鋼京唐鋼鉄	◎	5, 500m³ 高炉 (第 1 期)	450	08 年 6 月稼動予定
		◎	5, 500m³ 高炉 (第 2 期)	450	10 年稼動予定
		◎	転炉 (300t) × 3	970	第 1 期は 08 年 6 月稼動予定
			スラブ連続×2		
			熱延ミル×2		
			冷延ミル×2		
	酒泉鋼鉄		No. 1 連続鋳造 (CSP)	100	06 年 6 月稼動済
			No. 2 連続鋳造 (CSP)	100	06 年 6 月稼動済
			熱延ミル	200	06 年 5 月稼動済
			溶融亜鉛めっきライン	20	07 年以降稼動予定
	順徳浦項鋼板		無方向性電磁鋼板	10	07 年 3 月稼動予定
	常熟華冶薄板		冷延ミル	50	06 年 9 月稼動済
	常熟欣瑞科技材料		冷延ミル	30	06 年 4 月稼動済
			No. 2 CGL	30	06 年 4 月稼動済
			No. 3 CGL	30	07 年稼動予定
			カラー鋼板ライン	18	06 年 4 月稼動済
	徐州東南鋼鉄工業		連続鋳造	100	06 年 6 月稼動済
	新疆八一鋼鉄	◎	電炉 (110t)	60	06 年 4 月稼動済
			連続鋳造 (スラブ)	60	06 年 4 月稼動済
			熱延ミル	300	06 年 9 月稼動済
	蕪湖新興鑄管		棒鋼・線材ミル	80	06 年 11 月稼動済
	浙江元立金属制品		棒鋼ミル	60	06 年 1 月稼動済
	浙江永潔実業		溶接鋼管	30	06 年 5 月稼動済
	宣化鋼鉄	◎	転炉 (120t)		07 年稼動予定
			形鋼ミル (中形)	70	07 年 7 月稼動予定
	蘇州開元集団, 蘇州揚子江新型材料		冷延ミル	45	07 年稼動予定
	陝西龍門鋼鉄		線材ミル	40	06 年 12 月稼動済
	大慶石油鋼管廠		溶接鋼管	20	06 年稼動

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	太原鋼鉄(集団)	◎ 4, 350m ³ 高炉		320	07 年稼動予定
		◎ 電炉(160t)		150	06 年 9 月稼動済
			連続鋳造(スラブ)		06 年 9 月稼動済
			STS 熱延	200	06 年 9 月稼動済
			STS 冷延	50	06 年 2 月稼動済
			STS 継目無鋼管	5	07 年 12 月稼動予定
	太原鋼鉄(集団), 山西新臨鋼鉄		厚板ミル	120	06 年 1 月稼動済
	中山中粵馬口鉄工業		冷延ミル(ブリキ原板用)	15	07 年以降稼動予定
	長達鋼鉄		厚板ミル	120	07 年 1 月稼動予定
	長沙新启派不銹鋼		STS 冷延	4	06 年 12 月稼動済
	通化鋼鉄集団, 四平新型鋼絞線 通化鋼鉄		冷延ミル	20	06 年 10 月稼動済
			熱延ミル	115	07 年 10 月稼動予定
			冷延ミル	100	07 年 12 月稼動予定
	鄭和拓普軋制技術		冷延ミル	200	08 年 5 月稼動予定
	天津鋼管集団		継目無鋼管		06 年 12 月稼動
	天津天鋼集団	◎ 3, 200m ³ 高炉		255	06 年 5 月稼動済
	天津天鉄冶金集団		熱延ミル	390	07 年以降稼動予定
			冷延ミル	150	07 年以降稼動予定
			溶融亜鉛めっきライン	35	07 年以降稼動予定
			カラー鋼板ライン	15	07 年以降稼動予定
	唐山鋼鉄集団, 唐山鋼鉄		冷延ミル	130	07 年以降稼動予定
	唐山中厚板材	◎ 1, 500m ³ 高炉		137	06 年 5 月稼動済
		◎ 転炉(120t)			06 年 5 月稼動済
			厚板ミル	150	06 年 8 月稼動済
	唐山不銹鋼	◎ 転炉		60	08 年稼動予定
			STS 熱延	60	07 年 12 月稼動予定
			STS 冷延	30	07 年 12 月稼動予定
	唐山建龍実業, 黒龍江建龍鋼鉄	◎ 532m ³ 高炉		50	06 年 12 月稼動済
	寧波鋼鉄		棒鋼ミル	80	06 年 1 月稼動済
		◎ 2, 500m ³ 高炉×2		400	07 年以降稼動予定
		◎ 転炉(180t)×3			07 年以降稼動予定
			連続鋳造(スラブ)×2		07 年以降稼動予定
			熱延ミル		07 年以降稼動予定
			冷延ミル		07 年以降稼動予定
	唐山港陸鋼鉄		熱延ミル	150	06 年 8 月稼動
	唐山国豊鋼鉄	◎ 450m ³ 高炉			06 年 6 月稼動済
			熱延ミル	200	06 年 6 月稼動済
	唐山貝氏体鋼鉄	◎ 転炉(40t)			06 年 6 月稼動済
	徳龍鋼鉄		冷延ミル	50	07 年 12 月稼動予定
	南京鋼鉄	◎ 2, 550m ³ 高炉		196	06 年 8 月稼動済
			熱延ミル	100	07 年以降稼動予定
	日照鋼鉄	◎ 530m ³ 高炉			06 年 3 月稼動済
			熱延ミル	200	07 年稼動予定
	寧夏電投鋼鉄	◎ 電炉(75t)		60	06 年 6 月稼動済
			ビレット連続	60	06 年 6 月稼動済
			棒鋼ミル	60	06 年 6 月稼動済

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	BlueScope Steel China		溶融亜鉛めっきライン	25	06 年 10 月稼動済
			カラー鋼板ライン	15	06 年 10 月稼動済
	馬鞍山鋼鉄	◎	4,000m ³ 高炉	280	07 年 1 月稼動予定
		◎	4,000m ³ 高炉	280	07 年以降稼動予定
		◎	転炉 (300t)	280	07 年 2 月稼動予定
		◎	転炉 (300t)	280	07 年以降稼動予定
			スラブ連铸×2	560	07 年 2 月稼動予定
			熱延ミル	485	07 年 3 月稼動予定
			冷延ミル	210	07 年 4 月稼動予定
			電磁鋼板ミル	40	07 年末稼動予定
			No. 1 亜鉛めっきライン	40	07 年 5 月稼動予定
			No. 2 亜鉛めっきライン	45	07 年 7 月稼動予定
			カラー鋼板ライン	40	07 年以降稼動予定
	攀枝花鋼鉄(集团), 四川長城特殊鋼		棒鋼ミル	50	07 年稼動予定
	武漢鋼鉄(集团), 武鋼集团鄂鋼 武漢鋼鉄		厚板ミル		08 年 10 月稼動予定
		◎	3,200m ³ 高炉	258	06 年 6 月稼動済
			熱延ミル	280	07 年 7 月稼動予定
			冷延ミル	215	07 年稼動予定
			冷延ミル	150	07 年以降稼動予定
			電磁鋼板	82	06 年 9 月稼動済
			電磁鋼板	20	07 年以降稼動予定
			No. 3 CGL	35	06 年 8 月稼動済
			No. 4 CGL	38	07 年以降稼動予定
	福建億鑫鋼鉄		棒鋼ミル	60	06 年稼動済
	福建凱西不銹鋼		STS 冷延	20	06 年 5 月稼動
	福建省三鋼(集团)	◎	転炉 (100t)	100	07 年以降稼動予定
			厚板ミル	100	07 年以降稼動予定
	福建統一馬口鉄		ティンフリー	10	06 年 5 月稼動済
	包頭鋼鉄	◎	2,600m ³ 高炉	175	07 年稼動予定
			連続铸造(ビレット)	150	07 年稼動予定
			軌条・形鋼ミル	90	06 年 7 月稼動済
			形鋼ミル	30	07 年 12 月稼動予定
			厚板ミル	120	07 年以降稼動予定
	北台鋼鉄(集团), 本溪北営鋼鉄		線材ミル	100	06 年 12 月稼動済
			線材ミル	100	07 年稼動予定
			熱延ミル	400	07 年 8 月稼動予定
	本溪鋼鉄		連続铸造(薄スラブ)	280	06 年 5 月稼動済
			熱延ミル	280	06 年 3 月稼動済
	本溪浦項冷延薄板		冷延ミル	190	06 年 7 月稼動
			溶融亜鉛めっきライン	45	07 年以降稼動予定
	丸一金属制品		溶接鋼管	10	06 年 3 月稼動
	無錫市匯金不銹鋼		STS 厚板	60	06 年稼動
	萊蕪鋼鉄		厚板ミル	180	07 年以降稼動予定
			冷延ミル	20	06 年 8 月稼動
	洛陽偉業彩板		カラー鋼板ライン	6	06 年 6 月稼動済

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	凌源鋼鉄	◎	2,600m ³ 高炉	200	07 年以降稼動予定
		◎	転炉 (120t) × 2	210	07 年以降稼動予定
			連続鑄造 × 2	210	07 年以降稼動予定
			形鋼ミル × 2 (大形・小形)	210	07 年以降稼動予定
	遼寧興利精密継目無鋼管		継目無鋼管	7	07 年 8 月稼動予定
	冷水江鋼鉄総廠		熱延ミル	100	06 年 10 月稼動

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
韓国	POSCO	◎	浦項 No. 3 高炉巻替え	+45	06 年 5 月稼動済
			光陽 No. 6 CGL	40	06 年 7 月稼動済
			浦項 電磁鋼板	約+35	06 年 7 月から順次増強
			浦項 No. 2 熱延	+40	06 年 7 月増強済
			光陽 No. 1 冷延	+11	06 年 5 月増強済
			浦項 No. 1 線材	+7	06 年 7 月増強済
			光陽 No. 3 酸洗	80	06 年 12 月稼動済
		◎	浦項 FINEX	150	07 年 4 月稼動予定
			浦項 No. 4 EGL	30	08 年 12 月稼動予定
			浦項 厚板工場	+110	09～10 年増強予定
			浦項 ブリキ	▲25	07 年以降売却予定
	現代製鉄		唐津 B 地区 熱延工場	200	06 年 10 月稼動済
		◎	唐津 A 地区 B 電炉	100	07 年 1 月再稼動予定
			唐津 B 地区 熱延工場増強	+100	07 年 6 月増強予定
		◎	高炉一貫製鉄所(第 1 期)	350	10 年末稼動予定
	現代ハイスコ		唐津 PL/TCM(酸洗・冷延)	150	06 年 5 月稼動済
			唐津 CVGL(GI・GA)	80	06 年 8 月稼動済
			CGL(Zn-Al めっき生産を開始)	10	06 年 11 月稼動済
	世亜製鋼		CGL(溶融亜鉛めっき)	30	06 年 1 月本格稼動済
	昌原特殊鋼		AOD、線材工場等合理化		06 年 10 月稼動済
	世亜ベスチール	◎	電炉、ブルーム連铸増強	+40	06 年 9 月増強済
			圧延ミル増強	+33	08 年増強予定
	浦項鋼板(POCOS)		No. 1 CGL 合理化(Zn-Al 参入)		06 年 9 月稼動済
	ユニオンスチール		PL/TCM(酸洗・冷延)	150	07 年 5 月稼動予定
	東国製鋼		厚板工場	150	09 年 9 月稼動予定
台湾	中国鋼鐵	◎	No. 2 高炉巻替え	+30	06 年 1 月稼動済
			No. 2 CGL	30	07 年 3 月稼動予定
			電磁鋼板	20	07 年 7 月稼動予定
			No. 7 スラブ連铸	200	07 年以降稼動予定
	中龍鋼鐵	◎	高炉～転炉～スラブ連铸	250	09 年末稼動予定
	燐輝企業	◎	電炉 2 基	125	09 年頃稼動予定
			線材ミル	60	09 年上期稼動予定
	燐興企業		線材ミル	30	09 年再稼動予定
	豐興鋼鐵	◎	電炉	+67	07 年 1 月増強予定
			小形平鋼	3	07 年 8 月稼動予定
	全威鋼鐵工業		溶鍛接鋼管	7	09 年 8 月稼動予定
	榮剛材料科技		STS 棒線	2	06 年 8 月稼動
			合金鋼棒線	3	06 年 8 月稼動
タイ	Samchai Steel		大径鋼管(コラム)	5	06 年下期稼動済
	Thai Tinplate		No. 4 ブリキ	14	06 年 5 月稼動済
	Able Steel Industry		スパイラル鋼管	5	06 年 10 月稼動済
	Thainox Stainless		STS 冷延	10	07 年末稼動予定
	G Steel		熱延(上工程増強は現況不明)	+160	07 年以降稼動予定
			酸洗	90	07 年末稼動予定
	Nakornthai Strip Mill		酸洗	60	06 年 4 月稼動済
	Nippon Steel Bar & CH Wire		冷間圧造用鋼線	4	07 年 7 月稼動予定
	Sahaviriya Group (SSI)	◎	一貫製鉄所(政変により遅延)	150	09 年稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
マレーシア	Choo Bee Metal		鋼管ミル	16	05 年末～06 年初稼動済
	Hiap Teck		鋼管ミル	30	06 年稼動済
	Kin Steel		線材ミル	30	06 年半ば稼動済
			形鋼ミル	50	06 年 3 月再稼動済
	Yung Kong Galvanising		冷延ミル	20	06 年末稼動済
	CMS Steel		棒鋼・線材ミル	▲30	06 年閉鎖・売却
	Malaysia EG Corp		電気亜鉛めっきライン	10	06 年末稼動済
	Malaysia Steel Works		ビレット連铸	+15	07 年初め増強予定
	Ornasteel		No. 3 冷延ミル	18	07 年上期稼動予定
	Mycron Steel		冷延ミル	+8	07 年末増強予定
	Mega Steel	◎	DRI	154	07 年下期稼動予定
			熱延ミル	約 70	07 年稼動予定
インドネシア	BlueScope Steel		No. 2 亜鉛めっきライン	17	08 年上期稼動予定
			No. 2 表面処理ライン	5	08 年上期稼動予定
	KHI Pipe Industries		溶接鋼管	9	06 年稼動
フィリピン	Global Steel Philippines		ETL(ブリキ)	15	06 年以降再稼動予定
ベトナム	Phu My Steel Works	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	50	06 年 6 月稼動済
	Sun Steel (Sunsco)		冷延ミル	20	06 年設備導入済
	Van Loi Steel	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	24	06 年 10 月稼動済
	Dinh Vu Steel	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	20	06 年 2 月稼動済
	Viet-Y Steel	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	25～40	08 年稼動予定
	POSCO		冷延ミル	120	09 年末稼動予定
	Lotus Steel		冷延ミル	12	07 年稼動予定
			No. 2 亜鉛めっきライン	10	08 年 8 月稼動予定
	Pomina Steel	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	50	07 年稼動予定
	Tycoon / Jinan Iron & Steel	◎	一貫製鉄所(ビレット)	200	09 年稼動予定
	Tycoon Group, Vung Tau		冷延・亜鉛めっき・伸線	計 21	06 年末稼動
	Thai Nguyen	◎	ビレット生産能力	+30	06 年増強
	Thep Viet	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	40	07 年稼動予定
	Da Nang Steel		棒鋼・線材ミル	25	07 年稼動予定
	Phu My Flat		冷延ミル	+20	07 年以降増強予定
	Cai Lan	◎	ビレット工場	50	07 年以降稼動予定
	Vietnam Shipbuilding Industry		厚板ミル	50	08 年稼動予定
インド	Essar Steel		スラブ連铸	180	06 年稼動済
			厚板ミル	150	07 年末稼動予定
		◎	1, 250m ³ 高炉		08 年度稼動予定
			スラブ連铸		08 年度稼動予定
	Jindal Steel & Power Ltd (JSPL)	◎	高炉	125	06 年 8 月稼動済
			厚板ミル(Raigarh)	100	07 年 3 月稼動予定
			厚板ミル(Angul 新製鉄所)	150	08 年度稼動予定
			線材ミル(Angul 新製鉄所)	60	08 年 12 月稼動予定
			棒鋼ミル(Angul 新製鉄所)	100	09 年 3 月稼動予定
	Jindal South West Steel (JSW Steel), Toranagalu	◎	4, 000m ³ 高炉	280	08 年 3 月稼動予定
			線材ミル	60	08 年 1 月稼動予定
			棒鋼ミル	100	08 年 3 月稼動予定
	Siscol		条鋼工場	+70	07 年 3 月増強予定
	Jindal Stainless LTD	◎	新ステンレス工場	180	08 年稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
インド	Bhushan Steel & Strips	◎	DRI・ビレット	30	06 年末稼動
		◎	一貫製鉄所(第 1 期、Orissa)	200	07 年稼動予定
	Ispat Industries, Dolvi	◎	No. 4 電炉	120	06 年稼動
		◎	高炉	160	09 年末稼動予定
			スラブ連铸		09 年末稼動予定
	Vikram Ispat	◎	DRI	60	08 年稼動予定
	Rashtriya Ispat Nigam, Visakhapatnam Steel Plant (Vizag Steel)	◎	3,800m³ 第 3 高炉		08 年 10 月完工予定
		◎	転炉(150t)×2		08 年 10 月完工予定
			ビレット連铸(角×4、丸×1)		08 年 10 月完工予定
			線材ミル	75	08 年 10 月完工予定
			形鋼ミル	65	08 年 10 月完工予定
			大形形鋼ミル	40	09 年 2Q 稼動予定
			継目無鋼管ミル	40	09 年 2Q 稼動予定
主な 大型 拡張 計画	Tata Steel	◎	Orissa 州一貫製鉄所	600	稼動目標 2010 年頃～
		◎	Jharkhand 州一貫製鉄所	1200	
		◎	Chhattisgarh 州一貫製鉄所	500	
	Sail	◎	既存製鉄所拡張	～+1000	
		◎	Jharkhand 州新製鉄所計画	1200	
	Essar Steel	◎	Jharkhand 州新設鉄所計画	500	
		◎	Hazira 新直接還元製鉄所計画	390	
	Jindal South West Steel (JSW Steel)	◎	Jharkhand 州新製鉄所計画	1000	
		◎	West Bengal 州新製鉄所計画	500	
		◎	Orissa 州新製鉄所計画	500	
	Jindal Steel & Power	◎	Orissa 州新製鉄所計画	600	
		◎	Jharkhand 州新製鉄所計画	600	
	Bhushan Steel & Strips	◎	Orissa 州新製鉄所第 2 期計画	300	
		◎	West Bengal 州鋼板工場計画	第 1 期 200	
	Ispat Industries	◎	Jharkhand 州一貫製鉄所計画	第 1 期 280	
イラン	Mobarakeh Steel (MSC)	◎	DRI	80	06 年稼動
			酸洗ライン	110	06 年 9 月稼動済
			溶融亜鉛めっきライン	40	09 年半ば稼動予定
	Yazd Rolling Mill	◎	電炉	30	06 年 6 月稼動済
			線材ミル	40	06 年 8 月稼動
			H 形鋼	50	06 年稼動
	IMIDRO	◎	電炉一貫製鉄所	150	09 年夏稼動予定
	Safa Industrial Group		軌条・形鋼ミル	100	07 年末稼動予定
		◎	DRI・電炉ベース鉄鋼工場	920	稼動目標 2010 年
	Samangan Steel	◎	電炉一貫製鉄所	74	09 年 9 月稼動予定
	Essar Pars Steel	◎	DRI×2	300	09 年稼動予定
		◎	電炉・ビレット連铸	140	09 年稼動予定
	イラン粗鋼生産 3 倍増計画				稼動目標 2010 年頃～
	MSC, Shadid Kharazi プロジェクト	◎	製鋼～熱延・冷延	200	
	Saba プロジェクト	◎	電炉～スラブ・熱延	70	
	Khuzestan Steel	◎	製鋼	+80	
	Bafgh 計画、Sirjan 計画など	◎	8 つの DRI 鉄鋼工場計画	80×8	

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
サウジ アラビア	Hadeed		棒鋼・線材ミル	50	06 年稼動済
			熱延ミル	+100	06 年 3 月増強済
		◎	DRI	176	07 年稼動予定
		◎	製鋼	+150	07 年増強予定
			カラー鋼板	12	07 年 1Q 稼動予定
	Al-Tuwairqi Group	◎	DRI	+80	06 年増強済
		◎	製鋼	+125	07 年増強予定
			継目無鋼管	75	07 年下期稼動予定
			棒鋼ミル	100	07 年稼動予定
	Unicoil		冷延・溶融亜鉛めっき	27	06 年本格稼動済
	Arabian Pipe		溶接鋼管(大径鋼管)	30	06 年稼動済
	Aziz European Pipe Factory		溶接鋼管	30	06 年稼動済
	Al Rajhi steel	◎	電炉・ビレット	85	06 年 12 月稼動済
			鉄筋ミル	30	06 年 6 月稼動済
UAE	Al Yamamah Co		棒鋼ミル	50	07 年稼動予定
	Taga Group		継目無鋼管	40	08 年稼動予定
	Atoun Steel Industry	◎	ミニミル(電炉・ビレット)	100	08 年末稼動予定
	General Holding Corporation, Emirates Iron and Steel	◎	DRI	160	08 年 8 月稼動予定
		◎	電炉・ビレット	140	08 年 6 月稼動予定
			棒鋼	62	07 年 10 月稼動予定
			線材	48	07 年 10 月稼動予定
	Hamriyah Steel		鉄筋	100	08 年稼動予定
	Al-Tuwairqi Group, Hamriyah	◎	DRI・製鋼・ビレット・鉄筋	100	07 年 10 月以降順次稼動
	Al Ghurair Iron & Steel		冷延	25	07 年 9 月稼動予定
			亜鉛めっき	20	07 年 9 月稼動予定
	Al-Nasser Industries	◎	DRI	20	07 年以降稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
英国	Corus, Scunthorpe		ブルーム連铸	100	07 年稼動予定
			軌条ミル	20	07 年 3 月稼動予定
	Workington		軌条ミル	▲	06 年 12 月閉鎖済
	Teesside		スラブ連铸	+20~40	07 年上期増強予定
			ブルーム連铸	▲120	06 年遊休
	Port Talbot	◎	スラブ(上工程合理化)	+30	07 年完了予定
	Outokumpu, CPS (Sheffield)		STS 冷延	▲30	06 年 4 月閉鎖済
	Thamesteel	◎	電炉(旧式設備置換え)	100	06 年末稼動済
		◎	電炉	▲70	06 年 8 月閉鎖済
			棒鋼・線材ミル	55	06 年稼動済
	Celsa UK	◎	電炉(旧式設備置換え)	120	06 年稼動済
		◎	電炉	▲85	06 年閉鎖済
	Falcon Steel		溶融亜鉛めっきライン	15	08 年 7 月稼動予定
			カラー鋼板ライン	11	07 年 9 月稼動予定
	Timken, Desford		継目無鋼管(機械構造用)	▲	06 年閉鎖
フランス	Arcelor, Dunkerque		スラブ連铸	+50	07 年合理化完了
	Fos-sur-Mer		スラブ連铸	+20	07 年下期合理化完了
	Ugine & ALZ, Isbergues	◎	STS 製鋼	▲48	06 年 9 月閉鎖済
	Vallourec, Saint-Saulve		ビレット連铸	+10	08 年初め稼動予定
ドイツ	ThyssenKrupp, Hamborn	◎	新 8 号高炉建設	+35	07 年末稼動予定
		◎	9 号高炉巻替え		08 年完了予定
		◎	4 号高炉閉鎖		08 年閉鎖予定
	Rasselstein		タンデム冷延ミル	+13	07 年初め増強予定
	Beeckerwerth		電気亜鉛めっきライン	▲36	05 年 9 月火災事故
			電気亜鉛めっきライン	16	06 年 12 月稼動
			熱延ミル合理化・増強		08 年完了予定
	Trierer Stahlwerk	◎	電炉・線材ミル	+18	07 年以降増強予定
イタリア	Riva, Taranto		溶融亜鉛めっきライン	65	08 年までに稼動予定
	Cornigliano		溶融亜鉛めっきライン	47	08 年までに稼動予定
	Caronno Pertusella Works		ビレット連铸		07 年 6 月稼動予定
	Marcegaglia, San Giorgio di Nogaro		厚板	+6	06 年 5 月増強
	Ravenna		溶融亜鉛めっきライン×2	80	09 年までに稼動予定
			カラー鋼板ライン		09 年までに稼動予定
	ThyssenKrupp Stainless, Terni		STS 酸洗・焼鈍	65	07 年 3Q 稼動予定
	Padana Tubi		溶接鋼管	+35	08 年までに増強予定
			STS 鋼管	+2	08 年までに増強予定
	Arvedi, Cremona	◎	ESP 方式ミニミル(鋼板生産)	200	08 年稼動予定
	Ori Martin, Brescia		線材ミル	+10	06 年末増強
	Duferdofin, Giammoro		鉄筋・形鋼ミル	70	07 年末稼動予定
	Stefana		鉄筋ミル	70	07 年末稼動予定
ベルギー	Arcelor, Cockerill Sambre	◎	上工程	▲	09 年閉鎖予定
	Duferco, Carsid SA	◎	高炉・製鋼	+20	07 年増強予定
	La Louviere SA		酸洗	60	08 年稼動予定
			冷延	30	08 年稼動予定
オランダ	Corus, IJmuiden	◎	7 号高炉	+29	06 年末増強完了
			冷延ミル	160	08 年 2Q 稼動予定
			溶融亜鉛めっきライン	55	08 年 2Q 稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
スペイン	Arcelor Espana SA, Gijón	◎	A 高炉改修	+20	06 年 2 月稼動済
	Zaragoza	◎	電炉など(工場を移設)	+32	07 年稼動予定
	Alfonso Gallardo	◎	電炉	120	07 年初め稼動予定
			形鋼ミル	75	07 年初め稼動予定
			棒鋼・線材・小形形鋼ミル	50	07 年初め稼動予定
	Celsa, Global Steel Wire		棒鋼ミル		06 年稼動
ポルトガル	Grupo Ferpinta, Carregosa		構造用鋼管工場	20	07 年半ば稼動予定
オーストリア	voestalpine, Linz		No. 4 熔融亜鉛めっきライン	45	07 年上期稼動予定
	voestalpine Schienen		軌条ミル(旧設備置換え)	40	06 年 2 月稼動済
デンマーク	Dansteel(露 NLMK が買収)		厚板ミル	+7	06 年増強
スウェーデン	Outokumpu, Fagersta		STS 鋼管工場	▲1	07 年半ば閉鎖予定
	Nyby		STS 鋼管工場	+1	07 年増強完了予定
フィンランド	Ovako(スウェーデン・フィンランド工場)		構造用棒鋼	+5~10	07 年初め増強予定
ポーランド	Mittal, Dabrowa Gornicza		スラブ連铸	300	07 年 1Q 稼動予定
	Krakow		熱延ミル	240	07 年 2Q 稼動予定
	Swietochlowice		コーティングライン	10	06 年稼動
	Arcelor, Huta Warszawa		棒鋼ミル	50	07 年稼動予定
チェコ	Mittal, Ostrava		大形形鋼	▲27	06 年能力削減済
			電磁鋼板	+8	10 年までに増強予定
スロバキア	US Steel Kosice		No. 3 熔融亜鉛めっきライン	35	07 年 1 月稼動予定
トルコ	Erdemir	◎	高炉	+30	07 年 7 月稼動予定
			厚板ミル	50	06 年 8~9 月稼動済
	Isdemir	◎	3 号高炉巻替、4 号高炉建設	+315	08 年までに稼動予定
		◎	転炉置換え	+305	08 年までに稼動予定
			スラブ連铸	250	06 年 11 月稼動済
			スラブ連铸	250	07 年 6 月稼動予定
			熱延ミル	350	08 年 2 月稼動予定
	Çolakoglu	◎	電炉(旧設備置換え)	200	06 年末稼動
		◎	電炉	▲160	06 年末閉鎖
			ビレット連铸	200	06 年末稼動
			スラブ連铸	200	06 年末稼動
	Kroman Çelik Sanayii		線材・鉄筋ミル	約 50	06 年 6 月稼動済
	Asil Çelik	◎	製鋼・圧延	+10~15	05~07 年増強予定
	Nursan Group	◎	電炉	+20~30	08 年までに増強予定
			鉄筋	60	06 年末~07 年稼動
	Tezcan		熔融亜鉛めっきライン	25	07 年下期稼動予定
			カラー鋼板ライン	10	07 年 4 月稼動予定
	Borçelik		亜鉛めっきライン	50	08 年下期稼動予定
	Icdas Çelik	◎	ミニミル(電炉・連铸)	150	08 年以降稼動予定
	Diler Demir Çelik		線材ミル	40	07 年春稼動予定
	Kardemir		軌条・形鋼ミル	40	07 年初め稼動予定
	Borusan Mannesmann		鋼管	+45	10 年までに増強予定
	Ilhanlar Haddecilik ve Tekstil San		鋼管	12	06~07 年で立上げ

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
ロシア	Evraz Group, Nizhny Tagil	◎	5号高炉建替え	170	06年9月稼動済
		◎	転炉工場合理化	+80	10年までに完了予定
	Novokuznetsk	◎	電炉・連铸設備改修		06年以降稼動
		◎	5号高炉巻替え		06～07年稼動予定
	Stahl NK	◎	工場閉鎖(平炉工場)	▲	07年7月閉鎖予定
	Magnitogorsk	◎	電炉・ビレット連铸	200	06年夏頃稼動
		◎	電炉・スラブ連铸	200	06年夏頃稼動
		◎	平炉×2	▲200	06年夏頃閉鎖
		◎	5号高炉置換え	120	07年末稼動予定
			線材ミル	80	06年7月稼動済
			厚板ミル	150	09年稼動予定
			溶融亜鉛めっきライン	45	08年7月稼動予定
	Severstal		大径鋼管ミル(Izhora)	50	06年7月稼動済
		◎	平炉×3・分塊ミル	▲	06～07年閉鎖
		◎	5号高炉改修	+40	06年稼動
			第2スラブ工場改修	+100	06年稼動
			第1熱延工場	+30～40	08～09年増強予定
	Novolipetsk	◎	5号高炉改修	+20	06年5月稼動済
		◎	7号高炉新設		
		◎	旧式小型高炉廃棄	+340	11年までに完了予定
		◎	転炉工場改修		
			熱延ミル	+100	10年までに増強予定
	Mechel, Chelyabinsk		No.4 ビレット連铸	100	06年末稼動済
			鉄筋	20	06年末稼動済
	Metalloinvest, Ural steel	◎	電炉	100	08年稼動予定
		◎	転炉工場	350	10年までに稼動予定
		◎	平炉工場	▲	10年までに閉鎖予定
			ブルーム連铸	100	07年稼動予定
			厚板ミル	120	10年までに稼動予定
			2,800圧延ミル	35	06年秋稼動
			大径鋼管工場	60	10年までに稼動予定
	OEMK	◎	電炉・熱延工場	120	10年までに稼動予定
	Lebedinsky	◎	HBI(Midrex)	140	07年稼動予定
	Mikhailovsky	◎	HBI	200	09年までに稼動予定
	UMMC, Serov Iron & Steel	◎	電炉	75	06年9月稼動済
		◎	平炉	▲60	06年閉鎖
	Tyumen ミニミル計画	◎	電炉・ビレット・棒鋼	55	08年末稼動予定
	Maxi Group, Revda ミニミル計画	◎	No.2 電炉	100	06年9月稼動
		◎	電炉・ビレット連铸	約100	07年末稼動予定
	Nizhnie Sergi		小形形鋼ミル改修	+70	06年11月稼動
		◎	転炉・ビレット連铸	100	08年頃稼動予定
	Asha steel		ビレット連铸	80	07年夏稼動予定
	Russian Coal, Amurmetal	◎	電炉	120	07年稼動予定
			スラブ連铸	100	07年2月稼動予定
	Zlatoust	◎	電炉(平炉置換え)		07年秋稼動予定
	Rostov 新工場計画	◎	電炉・ビレット・鉄筋	75	07年4月稼動予定
	IUD, Krasnodar ミニミル計画	◎	電炉・条鋼圧延	150	08年下期稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
ロシア	OMK グループ	◎	電炉・薄板ミル (Vyksa)	120	07 年下期稼動予定
		◎	平炉 (Vyksa)	▲58	07 年下期頃閉鎖予定
		◎	電炉 (Chusovoy)	100	10 年までに稼動予定
		◎	平炉 (Chusovoy)	▲52	10 年までに閉鎖予定
			大径鋼管工場 (Vyksa)	+38	08 年までに増強予定
			厚板ミル (鋼管用母材) (Vyksa)	120	10 年までに稼動予定
	TMK グループ	◎	電炉 (Volzhsky)	+15	09 年までに増強予定
		◎	電炉 (Seversky)	100	09 年までに稼動予定
		◎	平炉 (Seversky)	▲65	09 年までに閉鎖予定
		◎	電炉 (Taganrog)	100	09 年までに稼動予定
		◎	平炉 (Taganrog)	▲50	09 年までに閉鎖予定
			継目無鋼管	+20	07 年までに増強予定
	TMK-CPW (Sidenor と合弁)		大径鋼管	+7	06 年増強
			溶接鋼管	30	07 年 2Q 稼動予定
	ChTPZ グループ	◎	電炉 (平炉置換え)	100	10 年までに稼動予定
ウクライナ	Mittal, Kryviy Rih	◎	高炉補修・合理化	+190	10 年までに完了予定
		◎	粗鋼 (平炉閉鎖・転炉新設)	+250	10 年までに完了予定
			スラブ連铸	500	10 年までに稼動予定
			ビレット連铸	500	10 年までに稼動予定
			熱延ミル	450	10 年までに稼動予定
	Ilyich		スラブ連铸	120	07 年 1Q 稼動予定
	Azovstal	◎	1,700m ³ 2 号高炉	110	06 年 7 月稼動済
			スラブ連铸	250	06～07 年稼動予定
	Zaporizhstal	◎	転炉・スラブ連铸	200	08 年稼動予定
			酸洗設備	140	08 年 6 月稼動予定
	Makeevka	◎	1 号高炉		06 年再稼動
			条鋼圧延ミル	70	07 年下期稼動予定
	Alchevsk	◎	1 号高炉		06 年再稼動
		◎	300t 転炉工場 (平炉置換え)	約 270	06 年末稼動
		◎	300t 転炉工場 (平炉置換え)	約 270	07 年末稼動予定
			No. 2 スラブ連铸	250	06 年稼動
			熱延ミル	400	10 年までに稼動予定
			冷延ミル	80	10 年までに稼動予定
			形鋼ミル	▲	10 年までに閉鎖予定
	Dneprovsky (旧 Dzerzhinsky)	◎	10 号高炉	110	07 年再稼動予定
		◎	第 3 転炉工場		07 年稼動予定
			第 3 ビレット連铸	200	07 年末稼動予定
	Enakievo	◎	5 号高炉再建	110	07 年稼動予定
	Khartsyzsk Tube Works		大径鋼管ミル	約 20	06 年末稼動済

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
米国	Mittal Steel USA, Cleveland		亜鉛めっきライン	70	06 年 4 月稼動済
	US Steel, Gary	◎	14 号高炉補修	+75	06 年 1 月末再稼動済
	AK Steel, Butler		電磁鋼板	+5	07 年末までに増強
	Nucor, Decatur		亜鉛めっきライン	50	08 年稼動予定
	----- Memphis		special bar quality (SBQ)	85	08 年 1Q 稼動予定
	North American Stainless	◎	電炉	30	06 年 9 月稼動済
			STS 冷延	10	06 年 3 月稼動済
	Steel Dynamics, Columbia City		軌条・構造用形鋼など	+60	07 年下期増強予定
	----- Jeffersonville		めっきライン	20	07 年夏稼動予定
	NS Group Inc		継目無鋼管	+5	08 年初め増強予定
	Steelscape, Shreveport		めっきライン	25	06 年 11 月稼動済
			コーティングライン	20	06 年上期稼動済
	SeverCorr LLC	◎	製鋼～圧延～亜鉛めっき	150	07 年 1Q 稼動予定
	Oregon Steel		スパイラル溶接鋼管ミル	15	06 年稼動済
	Maverick Tube Corp, Elyria		機械構造用鋼管工場	▲	閉鎖
	Wheatland Tube, PA		鋼管工場	▲25	06 年閉鎖
	Berg Steel Pipe		大径鋼管ミル	18	08 年稼動予定
	Smorgon Steel		LiteSteel beam	6	08 年下期稼動予定
	Minnesota Steel Industries	◎	DRI	183	09 年稼動予定
		◎	電炉・スラブ工場	165	09 年稼動予定
	Commercial Metals Co	◎	マイクロミル(鉄筋)	28	09 年初め稼動予定
	Charter Steel, Cuyahoga Heights	◎	電炉	35	06 年 9 月稼動済
	Severstal North America	◎	C 高炉合理化		07 年 10 月稼動予定
	CSN, Kentucky 州プロジェクト		熱延	150～200	09 年までに稼動予定
	ThyssenKrupp 北米新工場計画		熱延・冷延・亜鉛めっき工場	450	09 年稼動予定
カナダ	Ipsco(カナダ・米国製鉄所)	◎	製鋼	+50	09 年までに増強予定
メキシコ	IMSA		溶融亜鉛めっきライン	26	07 年末稼動予定
			カラーコーティングライン	44	07 年末稼動予定
	Ahmsa	◎	粗鋼	+130	09 年までに増強予定
			厚板ミル	+50	09 年までに増強予定
			薄板	+54	09 年までに増強予定
			大形形鋼	+21	09 年までに増強予定
	DEACERO	◎	電炉・ビレット・線材	100	06 年秋～07 年稼動
	Mittal, Lazaro Cardenas	◎	DRI	50	06 年稼動
	ThyssenKrupp Mexinox		STS 冷延	+3	06 年 9 月増強済
	POSCO		溶融亜鉛めっきライン	40	09 年 7 月稼動予定
ブラジル	Arcelor Brazil, CST	◎	3 号高炉・スラブ	250	07 年 1Q 稼動予定
			熱延ミル	+200	08 年増強予定
	----- Belgo, Monlevade	◎	条鋼工場	+120	09 年増強予定
	Usiminas, Cubatão(Cosipa)		スラブ連铸置換え	120～150	07 年 12 月稼動予定
			熱延ミル	200	10 年までに稼動予定
	----- 輸出スラブ工場計画	◎	スラブ工場	500	10～12 年稼動目標
	Gerdau Açominas	◎	新 2 号高炉・製鋼工場	150	09 年稼動予定
			スラブ連铸	150	09 年稼動予定
	Gerdau, Araçariçuama	◎	電炉	90	05 年～06 年 3 月稼動済
			棒鋼ミル	60	05 年～06 年下期稼動済

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
ブラジル	CSN, 輸出スラブ工場計画	◎	スラブ工場	450×2	11 年稼動目標
	条鋼工場建設計画	◎	条鋼工場	50	08 年稼動予定
	ThyssenKrupp, CSA プロジェクト	◎	スラブ工場	500	09 年 3 月稼動予定
	Ceará Steel	◎	スラブ工場	150	10 年稼動予定
	Marcegaglia, Garuva		鋼管工場	+20	06 年増強
	Usipar, Barcarena	◎	外販用銑鉄	50	06 年 11 月稼動済
	Acesita		STS 熱延	+5	07 年増強予定
			電磁鋼板	+10	07 年増強予定
	Ferro Gusa Carajás (Nucor & CVRD)	◎	木炭高炉	20	06 年 6 月稼動済
	Villares Metals		条鋼ミル	4	06 年 10 月稼動予定
	MMX Mineração e Metálicos SA (Corumbá 工場と Amapá 工場)	◎	外販用銑鉄工場×2	200	10 年までに完全稼働
			ビレット工場×2	100	10 年までに完全稼働
豪州	BlueScope Steel		ブリキ工場	▲40	07 年閉鎖予定